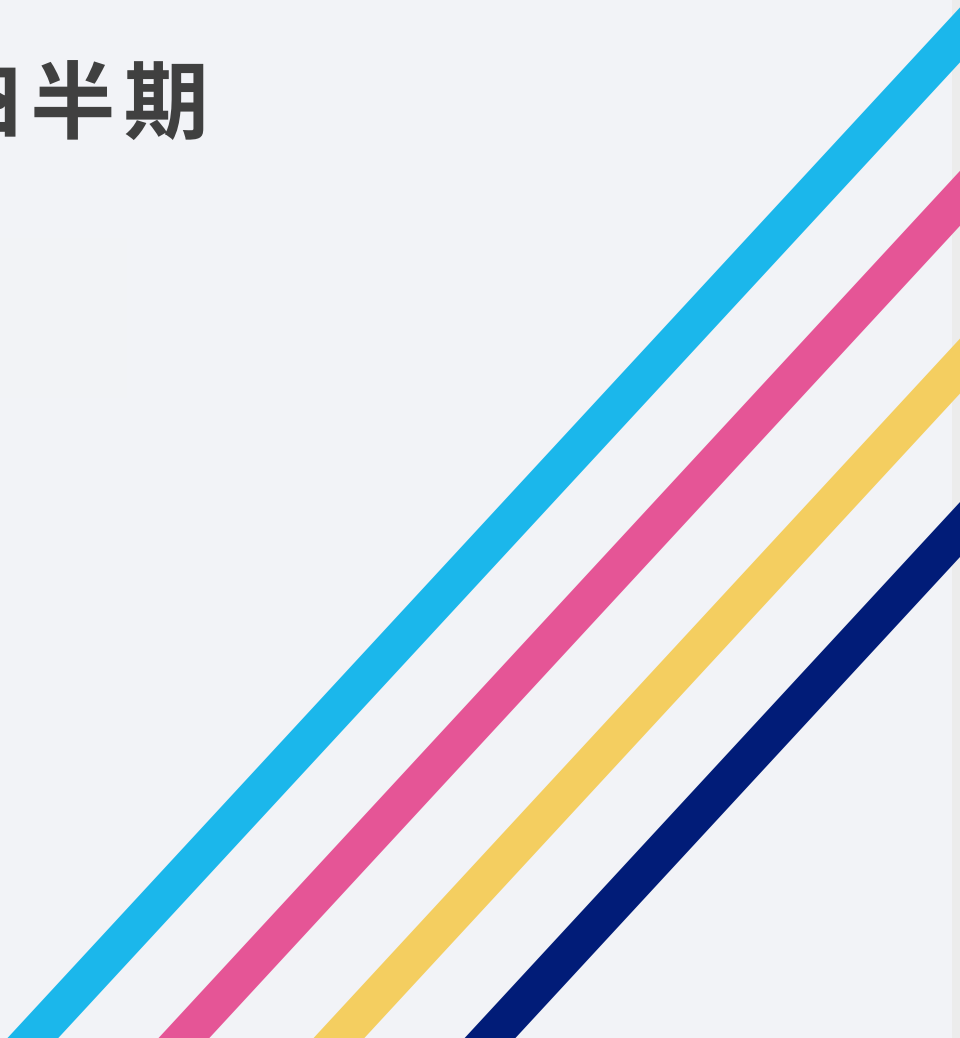


Gunosy

2025年5月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社 Gunosy

東証プライム（証券コード：6047）



INDEX

Executive Summary

1. エグゼクティブサマリー	P 03
----------------	------

Financial Results for FY2025 Q3

2. 2025年5月期 第3四半期決算の概要	P 11
------------------------	------

Business Overview by Divisions

3. 事業別の概要	P 15
-----------	------

Mid-term Financial Policy

4. 中期財務目標について	P 33
---------------	------

Topics

5. その他トピックス	P 39
-------------	------

About Gunosy

6. 会社概要	P 41
---------	------

APPENDIX

7. 参考資料：sliceに関して	P 50
-------------------	------

1

Executive Summary

エグゼクティブサマリー



2025年5月期
Q3累計

会社別

サマリー

売上高	4,630 百万円	修正予想進捗率 (通期) 75.7%	YoY 82.0%
-----	-----------	--------------------------	--------------

営業利益	593 百万円	修正予想進捗率 (通期) 87.2%	YoY +705 百万円
------	---------	--------------------------	-----------------

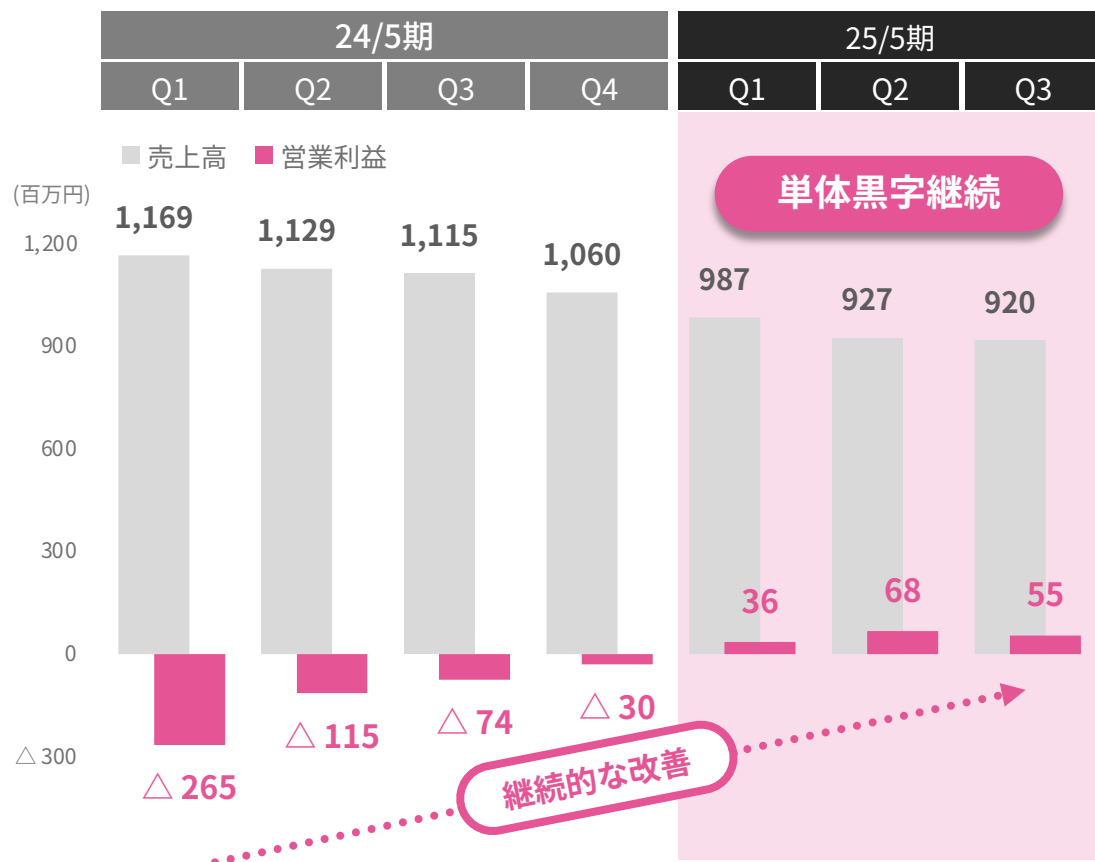
	Gunosy	ゲームエイト	その他
売上高	2,834 百万円	1,796 百万円	0 百万円
営業利益	160 百万円	506 百万円	△74 百万円

- Gunosyは営業利益黒字を維持、ゲームエイトは過去最高売上を更新。
修正予想に対して、営業利益の進捗率は87.2%と順調に推移。
- SC事業は1月23日に合併会社を設立。既に受注が進み、サービス開始に向け準備中。
- 投資先sliceはslice Small Finance Bankへの社名変更を決定。
AUM・預金額といった重要KPIが再成長を開始。3月単月ではEBTDA^{*}が黒字化。
- 株主還元方針を、DOE 3%以上の安定配当及びDOE 5%の将来的な達成に変更。
当年度は連結株主資本に対して5%の株主還元の実施を決議。 (配当: 4% 及び自己株式取得: 1%)
(P9,P10参照)

2025年5月期Q2に続き**四半期営業黒字を達成**。

事業ポートフォリオの整理と徹底したコストコントロールにより、**継続的な黒字化**を実現。

事業運営コストの改善



Gunosy単体で 営業黒字を実現

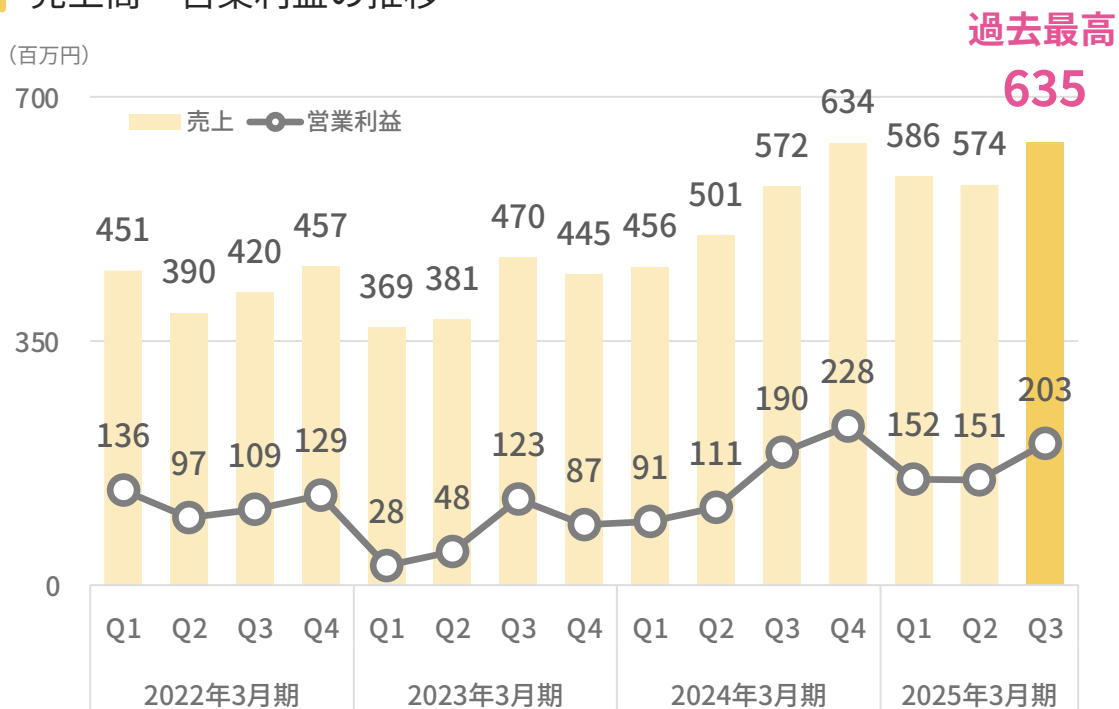
- 事業運営コストの改善
- 事業ポートフォリオの整理

売上、営業利益共に前年同期比で力強く成長。**売上高は過去最高を更新。**

2025年1月に始動したSC事業も、始動早々に受注獲得し、第3の収益基盤確立へ前進。

売上高・営業利益の推移

(百万円)



事業展開

国内メディア事業

海外メディア事業

SC事業

2025年1月23日合併会社設立



- 社会的に高い関心を持たれており、設立時に**30媒体以上で記事掲載**。
- 事業は**受注が進んでおり複数タイトルで開始準備**を進めている状況。

2025年1月23日の会社設立と同時に、「S8 Shops」「Game8 Store」をローンチ。

「スマホ競争促進法」の施行により新たに開放される**2兆円超の巨大市場**への本格参入を開始。

事業①

S8 Shops

アプリ外決済サイトを
ワンストップで構築・運用するサービス

ゲーム公式サイト内にて
アイテムショップを展開



購入したゲーム内通貨が
ゲームに反映

事業②

Game8 Store

「Game8」内で、ゲーム内アイテムや
ゲームダウンロードキーなどを販売できるECサービス

Game8の
ゲーム情報の文章中で
直接課金できる方式



Game8内に
ゲーム内通貨が
一覧で並ぶ販売方式

購入したゲーム内通貨が
ゲームに反映

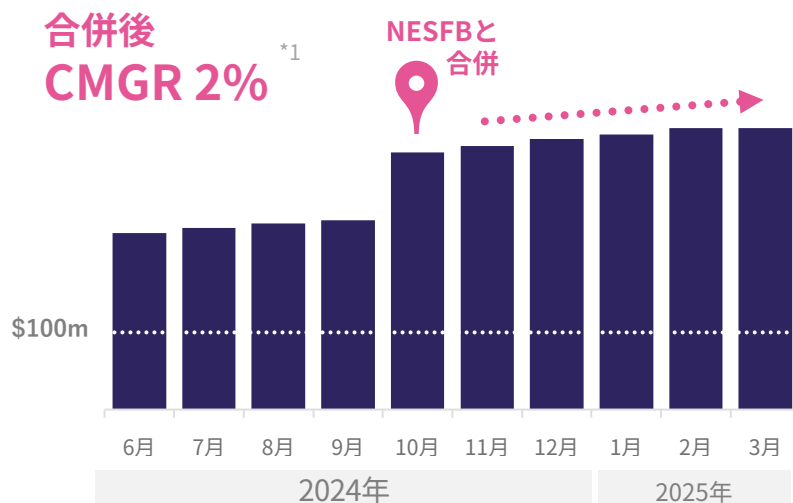
POINT

- ゲームユーザーに多様な選択肢と公平な価格を提供
 - 攻略メディアから**シームレスな決済体験**、**ポイント還元**でユーザー満足度を向上。
- パブリッシャーに新たな販売・決済手段を提供
 - 低手数料**と**国内最大級ゲームメディアのリーチ力**を背景に、高い訴求力を実現。

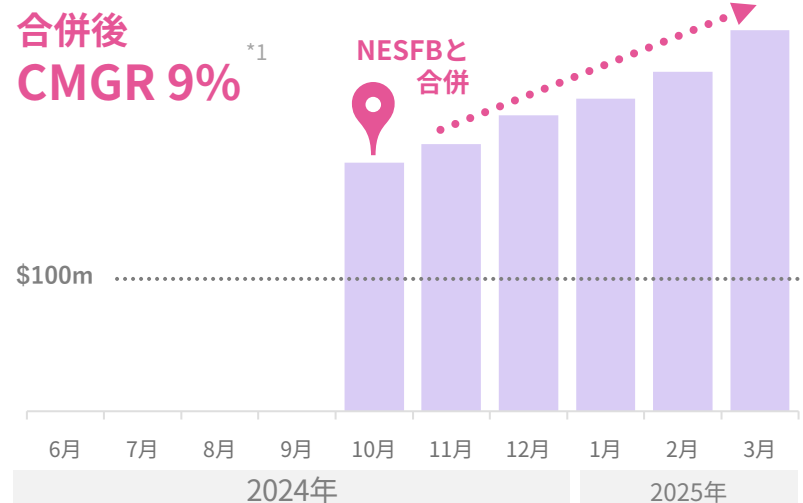
重要KPIであるAUM及び預金額(Deposit)は合併後に順調に成長。

4月からはDepositサービスを本格展開、今後の更なる成長が見込まれる。

AUM



預金額 (Deposit)



ハイライト

1

事業規模の成長

合併後、成長が再開。特に収益インパクトの高いDepositの成長はAUMに比して好調。
2025年4月以降はDepositサービスの本格展開によりさらなる成長が見込まれる。

2

収益性の改善

預金の受け入れによる借入コストの低減などにより、
銀行ライセンスの保有による好影響が顕在化、3月単月ではEBTDA^{*2}が黒字化。

3

合併後の進捗

slice Small Finance Bankへの社名変更を決定。
ブランド力を活かし**インドフィンテック発の銀行**へ。

為替レートは簡便的にINR/USD 0.012の為替レートを一律で適用

* 1 CMGR(Compound Monthly Growth Rate) 2024年10月末から2025年3月までの5か月で算定

* 2 EBTDA =Earnings Before Taxes, Depreciation, and Amortization 銀行業のため、Interestは加味した数値で計測

業績見通しやsliceの成長期待を踏まえ、安定的な株主還元と事業成長を両立できると判断。

DOE 3%以上の安定配当をベースに、将来的にはDOE 5%の達成を目指す株主還元方針に変更。

株主還元変更の背景

以下の2点から
安定的な株主還元と事業成長
を両立できると判断

① 既存事業の業績見通し

Gunosy単体での黒字化、
ゲームイト事業の継続的な成長により、
連結ベースで安定的な利益創出の確度が向上。

② 投資先であるsliceの成長

sliceが**インド初のフィンテックバンクへ発展。**
今後の成長可能性が大きく高まった。

株主還元の方針の変更

従来方針

安定的な利益創出が見込まれた時点での配当開始。
投資サイドの実現利益の20%の株主還元。

変更後方針

ベース方針

DOE 3%以上の安定配当。
及び投資サイドの実現利益の20%の株主還元。
+

↓

将来的な目標

DOE 5%の達成。*

POINT

- DOE(株主資本配当率)は、年間配当額/連結株主資本で算定。
- 既存事業の利益創出力は一定の成長投資とDOE 3%以上を安定的に配当できる状態にあると判断。
- 投資可能現預金を安定したC/Fを生むM&Aなどを筆頭に有望な投資機会に振り向け、
将来的にはDOE 5%の配当を維持できる利益水準の達成を目指す。(P37,P38参照)

株主還元 : 2025年5月期の株主還元

初配となる今年度は、**連結株主資本に対して5%となる株主還元の実施**を取締役会で決議。
内訳として連結株主資本に対して**4%の配当実施**及び**1%の自己株式の取得**を予定。

2025年5月期 配当方針

連結株主資本に対して**5%の株主還元**を決議



背景

- 安定的な利益創出の確度が高まり、修正業績予想の達成が見込まれる
- 一部株式の売却で実現利益が発生
- 合併によるsliceの投資価値向上を受け、成果を配当という形で還元

* 上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき算定。 実際の配当金は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合もあることに留意。
なお、本件は、2025年8月28日開催予定の当社第13期定時株主総会に付議予定。

2

Financial Results for FY2025 Q3

2025年5月期 第3四半期決算の概要



2025年5月期Q3連結業績

Q3累計での連結営業利益は**593百万円**。

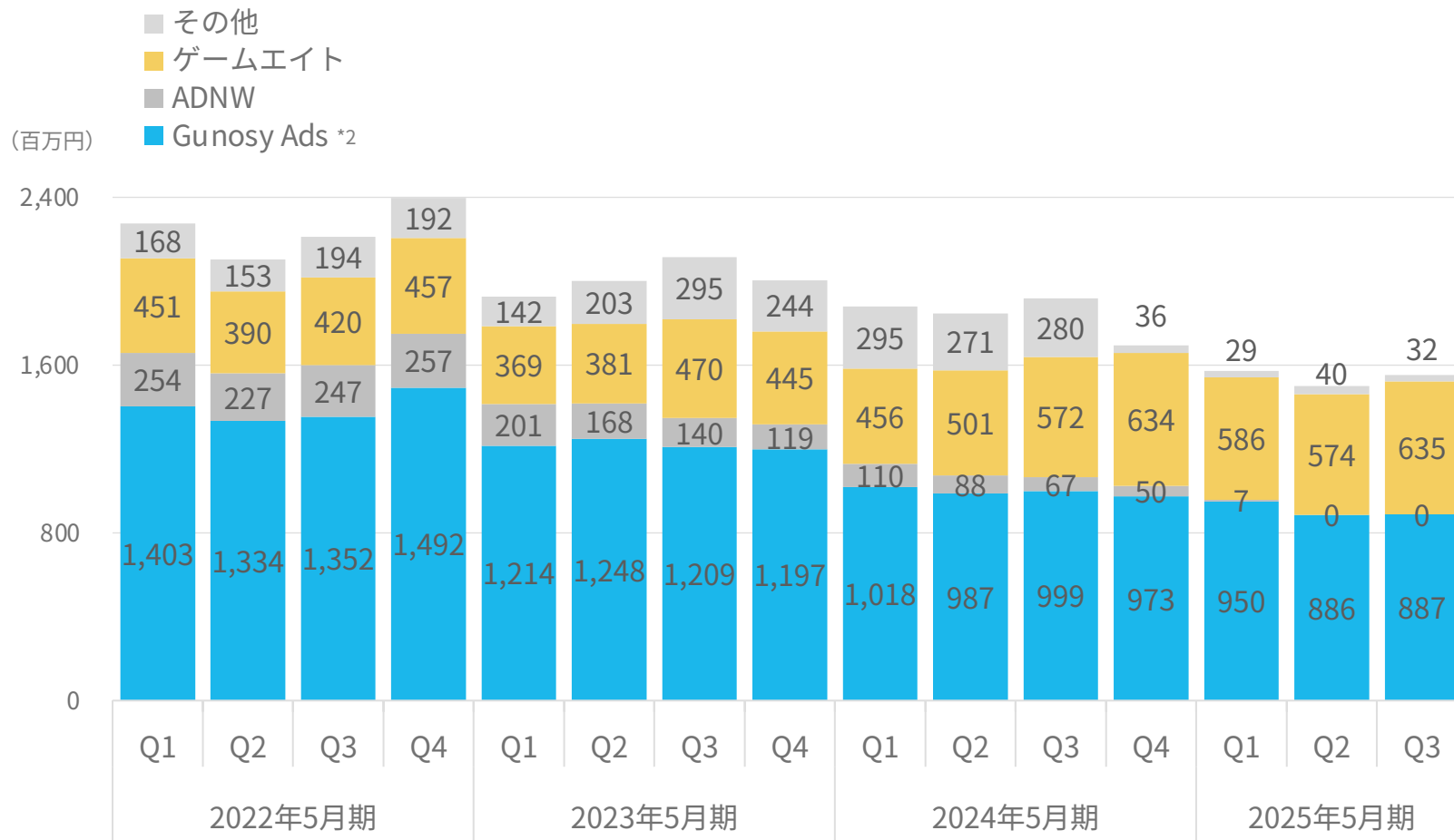
1月公表の業績予想に対して**進捗率は87.2%と順調に推移**。

(百万円)

	2025年5月期 Q3累計 (24年6-25年2月)	修正予想 (通期)	進捗率
売上高	4,630	6,120	75.7%
営業利益	593	680	87.2%
営業利益率	12.8%	11.1%	-
経常利益	391	429	91.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	204	180	113.4%

売上高構成^{*1}

ゲームエイトが引き続き高い売上水準を維持し全体を牽引。

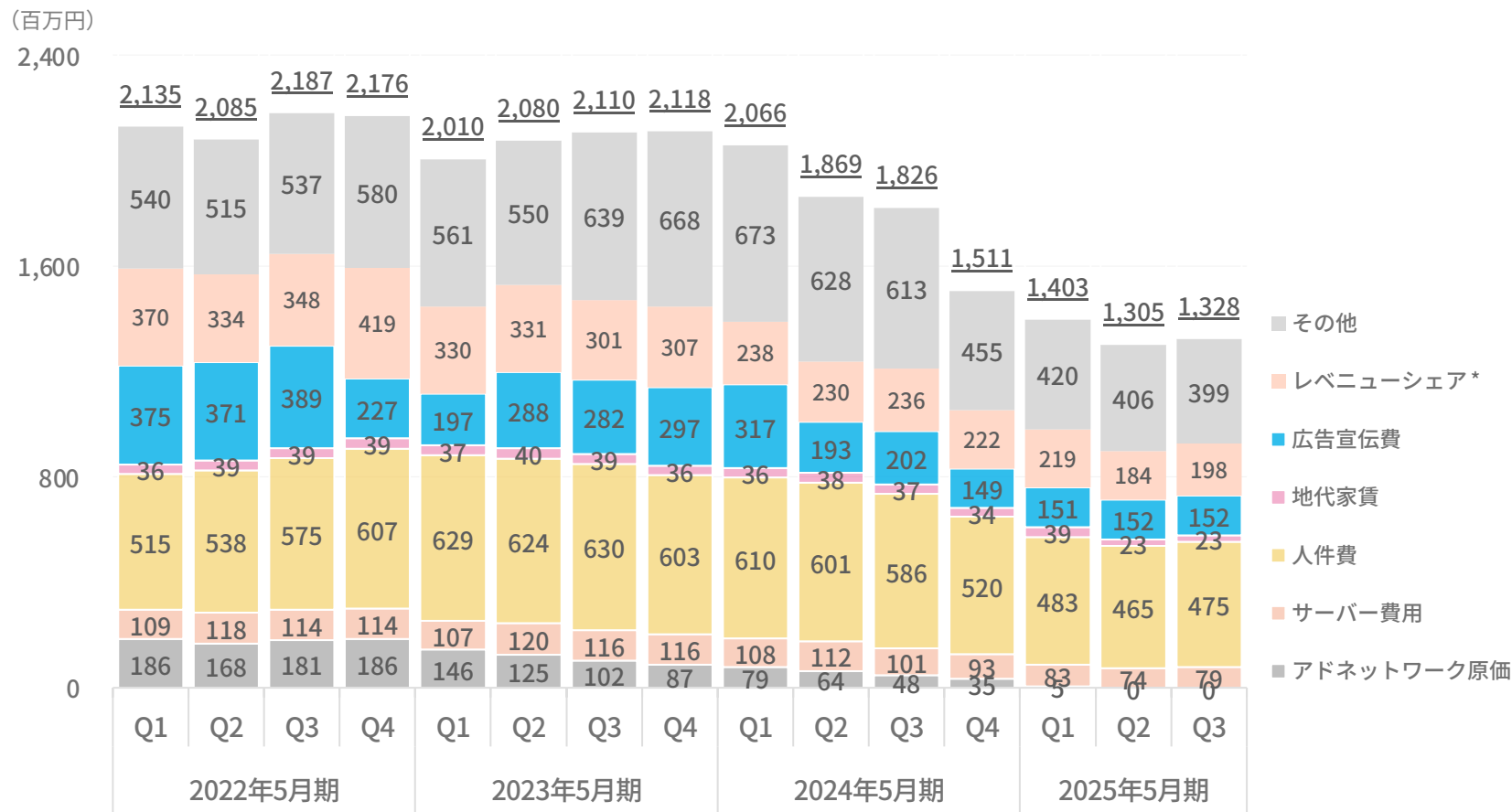


^{*1} 「Gunosy Ads」、「ADNW」、「ゲームエイト」は単体での数値。内部取引高調整は「その他」に含む

^{*2} Gunosy Adsは「グノシー」、「ニュースパス」、「auサービスToday」および「LUCRA(23年2月終了)」の合計

コスト構造の推移

成長投資としての広告宣伝費はQonQで維持しながらも、
効率的な事業運営を実現するためのコストコントロール方針を継続。



*「レベニューシェア」は、FY2021以前は「その他」に含む。FY2022Q1より「その他」から分離して数値を開示。
また、「ライブ動画製作費用」はFY2022Q1より「その他」に含め開示。

3

Business Overview by Divisions

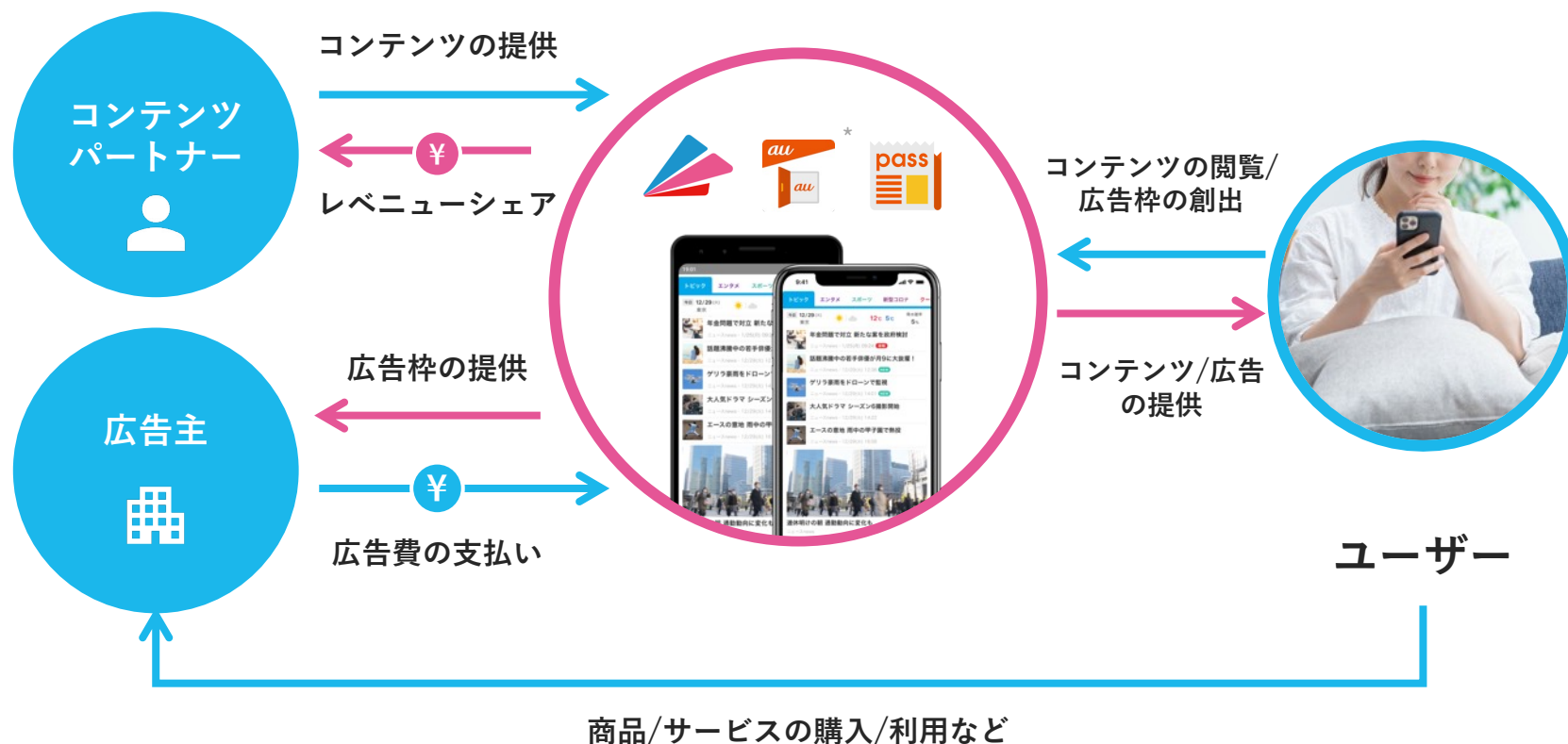
事業別の概要

メディア事業

ゲームエイト事業

投資
(slice)

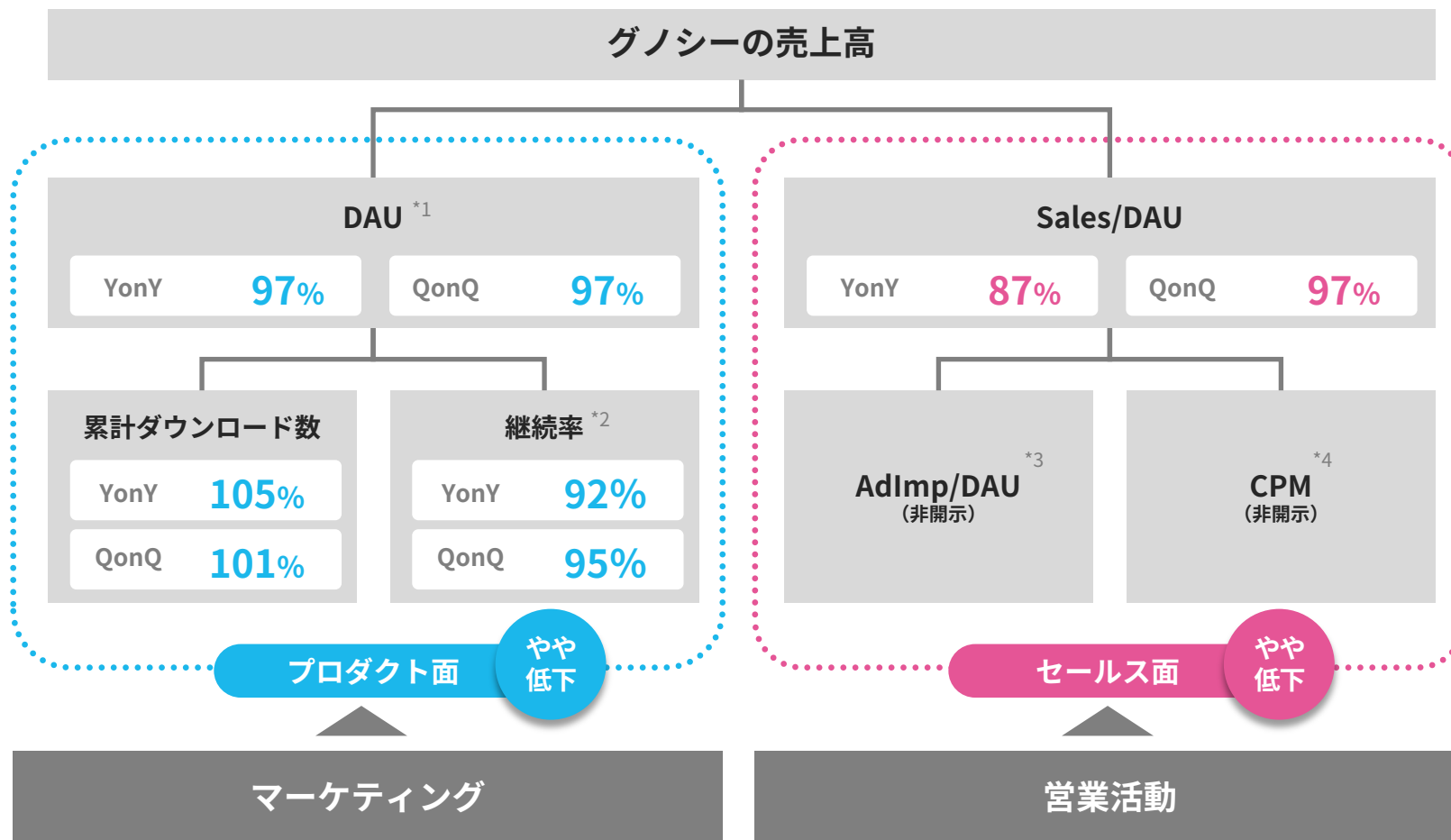
コンテンツパートナーからコンテンツを調達し、ユーザーに無料でサービス提供。
ユーザーに広告を配信する広告枠等を広告主に提供することで広告主から収益を得ている。



*ニュースパス、auサービスTodayはKDDI社と共同提供しているため売上及び、コストの一部を両社でシェアするモデル

Sales/DAUについてはQonQでほぼ同水準で推移。

DAUについては継続率の影響によりやや低下も、**売上高はおおむね修正計画どおりに進捗。**



*1: Daily Active Userの略

*2: 新規ユーザーが一定期間経過後に起動する割合

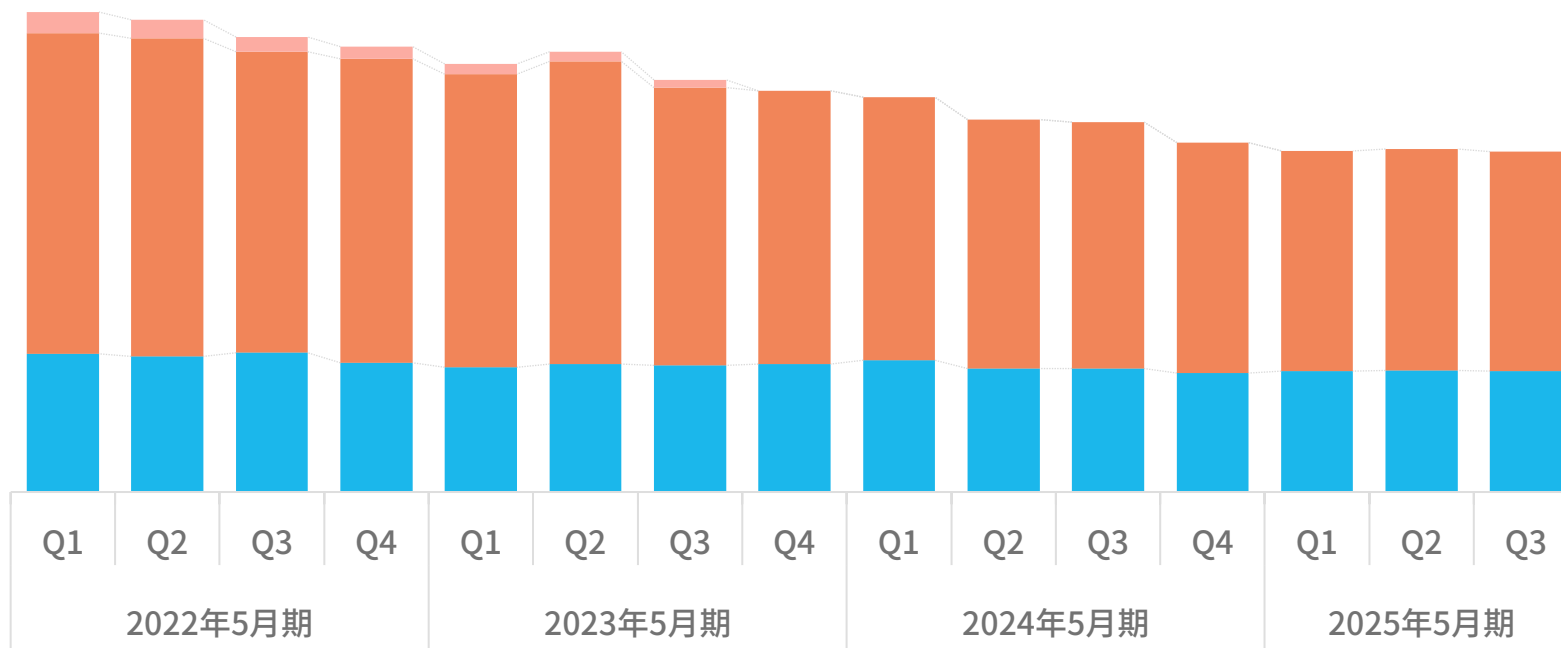
*3: DAUあたりの広告表示回数

*4: Cost Per Milleの略

メディア事業全体のMAUはQonQで横ばい。

安定的な利益創出を主軸に、**広告宣伝費の抑制を継続する中でMAU維持を達成。**

- LUCRA (2023年2月でサービス終了)
- ニュースパス+auサービスToday
- グノシー

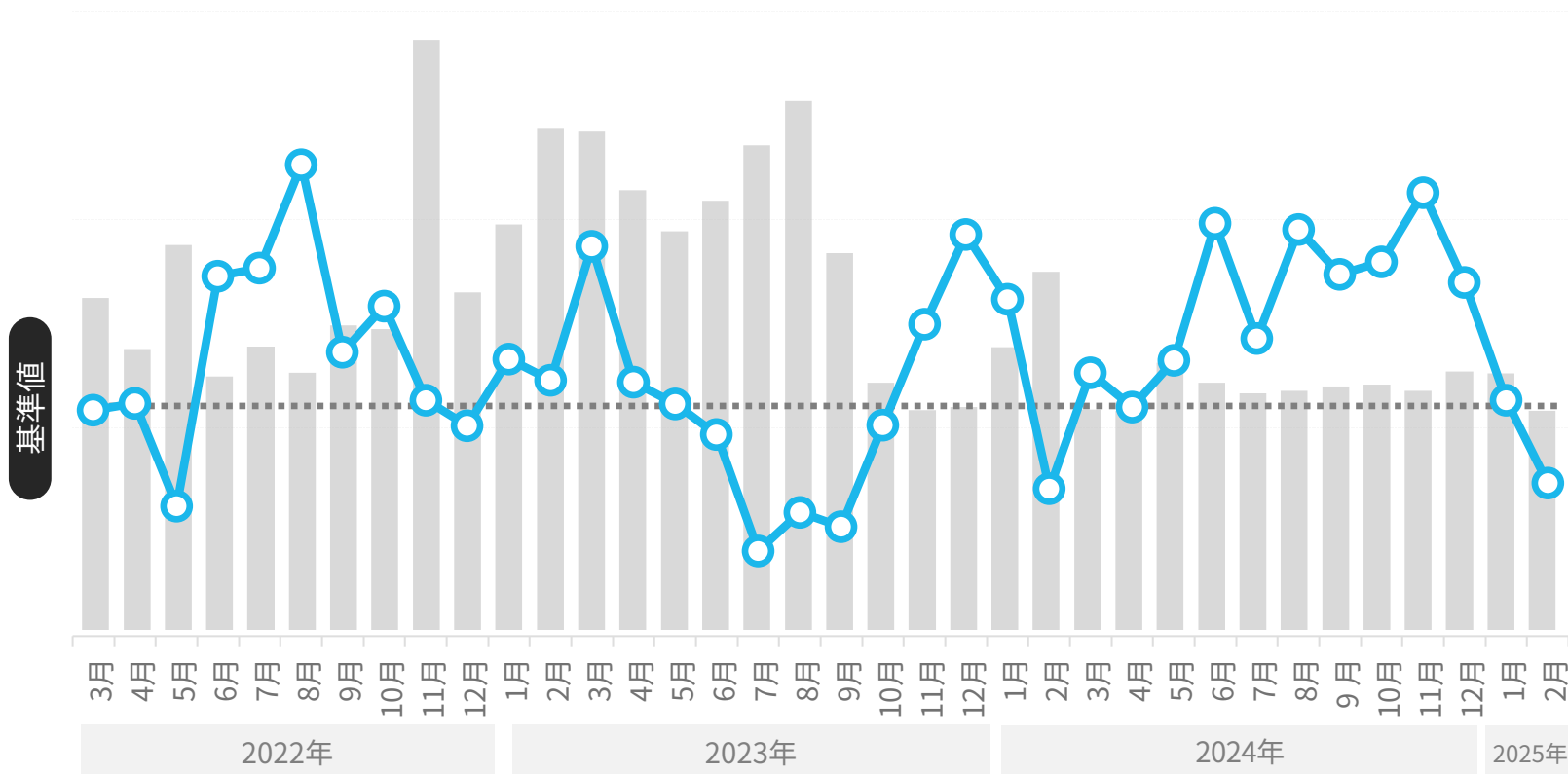


2月を除き、Q3の推定IRRは基準値を超えて推移。直近は一時的に時事ニュースの減少や季節性要因等の複合的要因でやや低調に推移しているものの、3月以降は回復傾向。

推定IRR・広告宣伝費の推移

■ 広告宣伝費（実績値）

● 推定IRR(ユーザーあたりの獲得単価(CPI)及び見込限界利益から推計した3年間のIRR)



3

Business Overview by Divisions

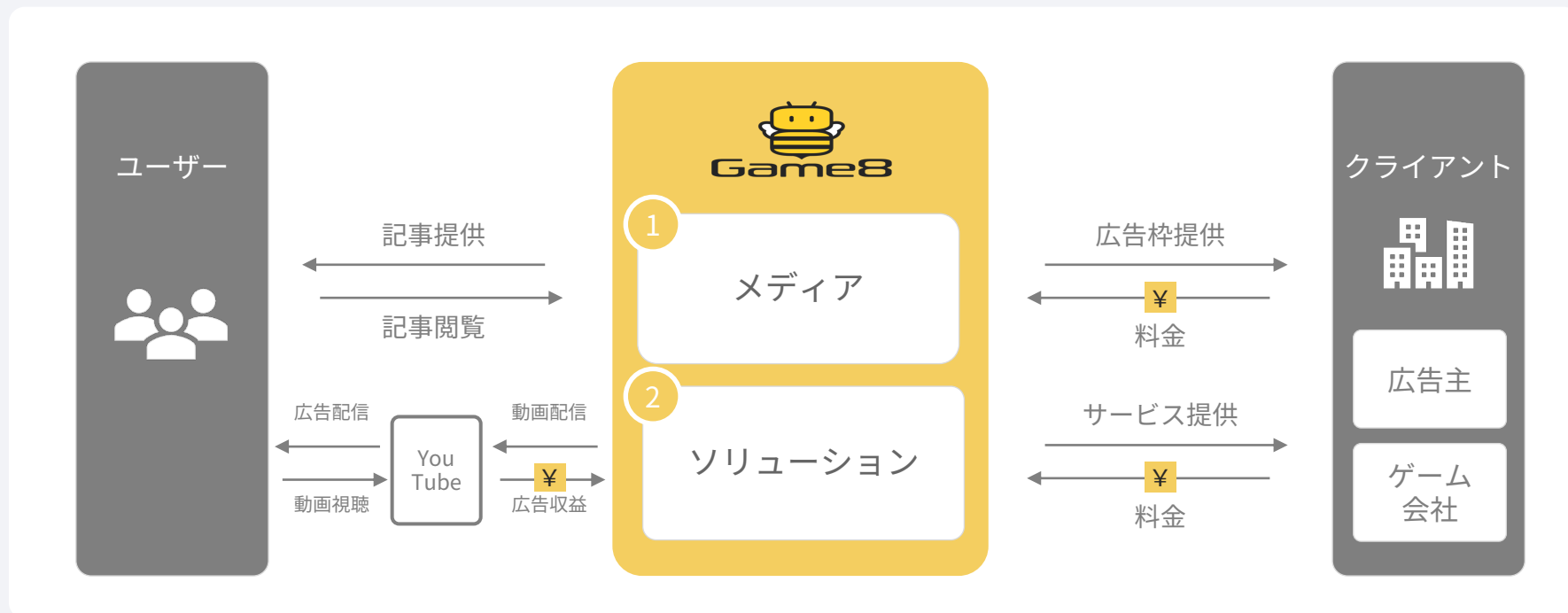
事業別の概要

メディア事業

ゲームエイト事業

投資
(slice)

ゲーム攻略メディアを通じた広告収入のマネタイズを軸に事業を展開。
攻略記事の執筆をはじめ多様な広告施策を用いた幅広いマーケティングソリューションを提供。



事業概要

1 メディア

- ・ 自社攻略サイト運営
- ・ 攻略サイトトップのジャック広告

2 ソリューション

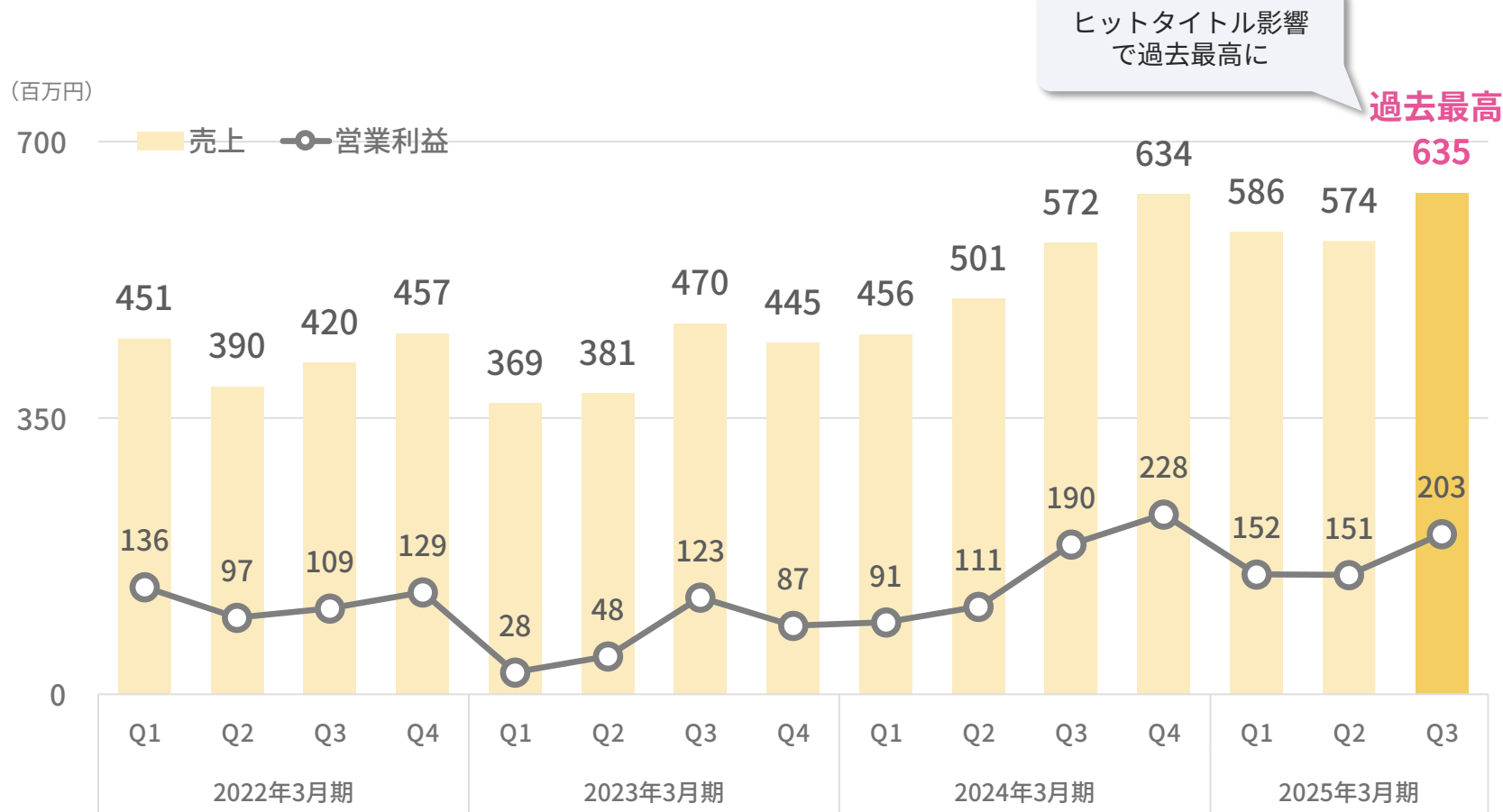
- ・ ゲーム攻略記事の作成
- ・ Game8.jp以外での広告施策の提供
- ・ SNS運用代行

強み

- ・ 国内最大のPV数を誇るゲームメディアを運営。
- ・ 国内は広告マネタイズチームを自社運営し、安定して高い広告単価を実現。
- ・ ゲームに特化した信頼性のあるソリューション営業。

ヒットタイトルの影響もあり、**四半期売上は635百万円と過去最高を記録。**

Q4*については、ヒットタイトルの攻略需要の落ち着きによる反動を一定見込む。

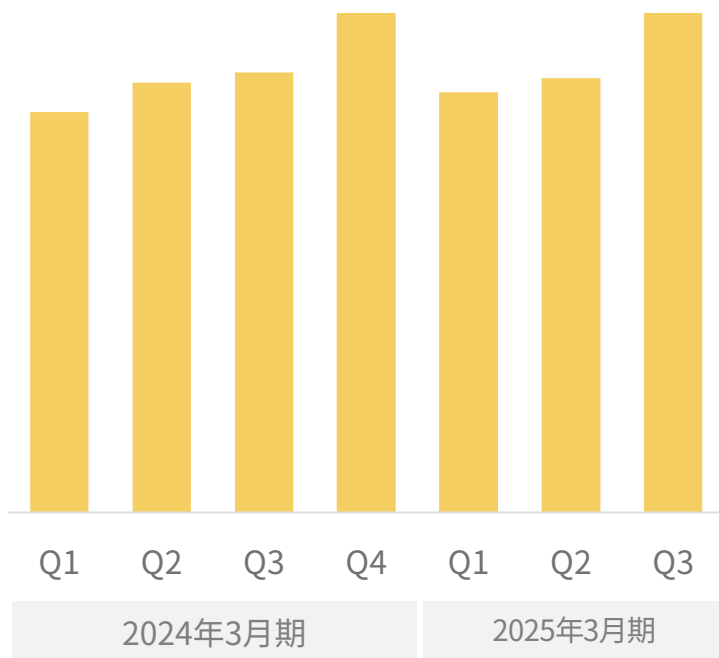


* Q4は親会社の連結決算期との期ズレにより、1月から3月までの業績。

Q3のPV数はヒットタイトルの影響もありシェアを拡大、**国内ゲームメディアでNo.1**に。
海外メディアにおける円安の追い風も受け、**引き続き高い収益性を維持**。

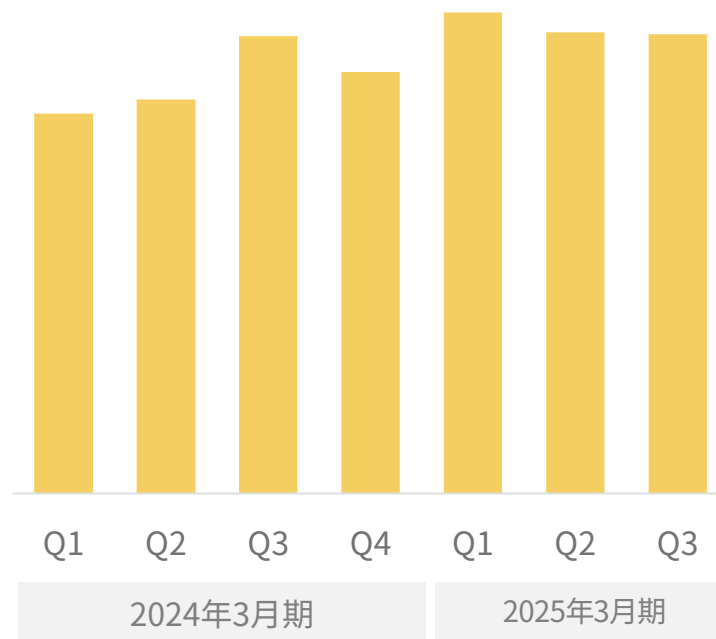
PV数

Q3は**国内ゲームメディアでNo.1**の
PV数を記録



RPM

海外メディアにおける
円安の追い風もあり高い収益性を維持



3

Business Overview by Divisions

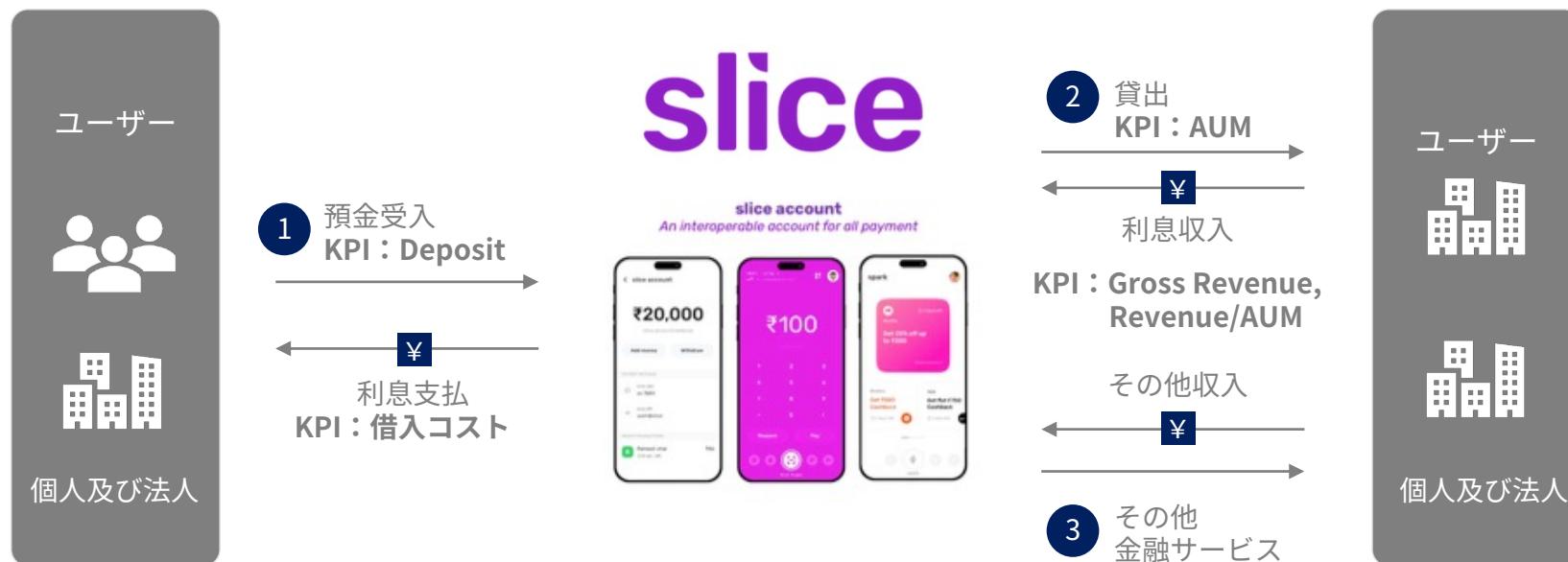
事業別の概要

メディア事業

ゲームエイト事業

投資
(slice)

インド金融サービス。直感的かつデジタルファーストな設計で若年層から高い支持。
合併後は銀行として、預金の受入を開始するなど提供する金融サービスを拡大。



事業概要

1 預金受入 2 貸出 3 その他金融サービス

アプリ上で完結するデジタルファーストなサービス。
預金として受け入れた資金を基にした
個人及び法人への貸出事業を軸に、各種金融サービスを提供。

強み

- インド初のデジタルファーストな銀行。
- 銀行ライセンスを保有しているため他のフィンテックスタートアップに比して下記の優位性を持つ。
 - 預金の受け入れにより **資金調達コストが低い**
 - 提供できる **金融サービスが多様**

合併後は預金口座やクレジットカードをはじめとする多様なサービス提供が可能に。

同時に、借入コストの低下や財務レバレッジの改善により、資本収益性の向上が期待される。

合併前ライセンス

Non-Banking Financial Company (NBFC)

預金口座の提供が不可

クレジットカードの独自発行は不可
貸出等、限られた金融サービスのみ

借入による調達時の利子率
約10-15%^{*2}

NBFC規制により
7倍未満^{*4}

合併後ライセンス

Scheduled Commercial Bank Small Finance Banks (SFB)

預金口座の提供が可能

一般的にクレジットカードの独自発行が可能
銀行のみが提供可能な幅広い金融サービス^{*1}

インド国内銀行預金コスト(Cost of Deposit)
約5-7%^{*3}

インド国内銀行
~約14倍^{*5}

預金の受け入れ

サービス

借入コスト

財務レバレッジ

^{*1} 規制上、一般的に認められる事業の可能範囲。
実際の事業開始には、個別の規制当局からの承認が求められる場合もある

^{*2} 合併前のslice NBFC Quadrillion Finance Private Limited のCredit Rating資料より
CARE Ratings Ltd. Quadrillion Finance Private Limited September 23, 2024 Annexure-1: Details of instruments/facilities ,
Nonconvertible Debentures, Coupon Rate (%)
出典： (https://www.careratings.com/upload/CompanyFiles/PR/202409130935_Quadrillion_Finance_Private_Limited.pdf)
CARE Ratings Ltd. Quadrillion Finance Private Limited November 29, 2023Annexure-1: Details of instruments/facilities ,
Nonconvertible Debentures, Coupon Rate (%)
https://www.careratings.com/upload/CompanyFiles/PR/202311131127_Quadrillion_Finance_Private_Limited.pdf

^{*3} Axis Bank Ltd Investor Presentation Quarterly Results Q2FY25 P7 Cost of Deposit
出典： (<https://www.axisbank.com/docs/default-source/investor-presentations/investor-presentation-q2fy25.pdf>)
AU Small Finance Bank Ltd Integrated Annual Report 2023-24 P313 Cost of Deposit
出典： (<https://objectstorage.ap-mumbai-1.oraclecloud.com/n/aubank2/b/Marketing/o/Annual-Report-FY24-Updated.pdf>)

^{*4} Master Direction - Reserve Bank of India (NBFC- Scale Based Regulation) Directions, 2023 Chapter IV Prudential Regulation 9.1 Leverage Ratio
出典： ([https://mfminidra.org/assets/upload_image/pdf/Master%20Direction%20\(Scale%20Based%20Regulation\)%20October%202019,%202023.PDF](https://mfminidra.org/assets/upload_image/pdf/Master%20Direction%20(Scale%20Based%20Regulation)%20October%202019,%202023.PDF))

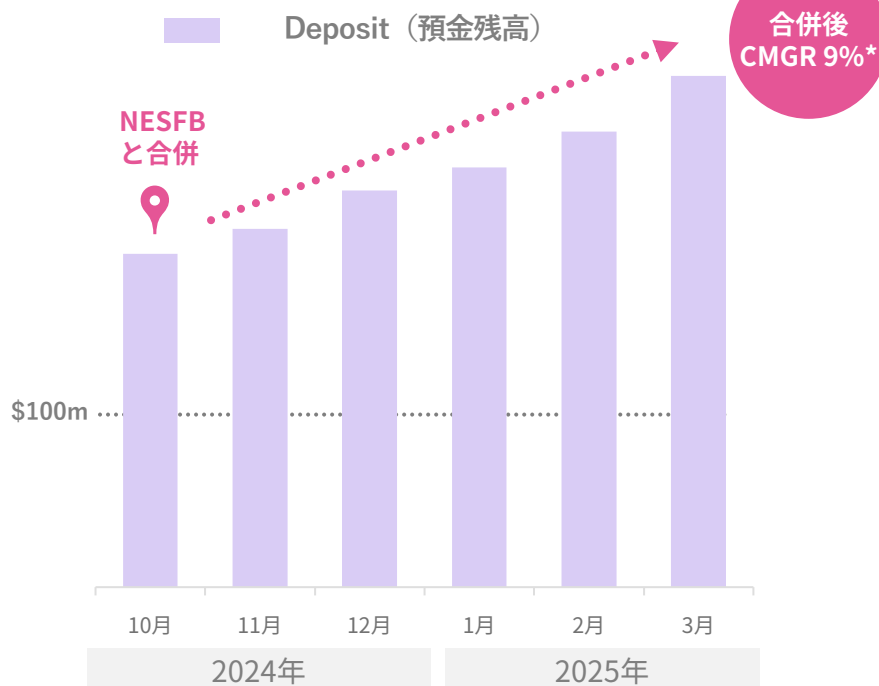
^{*5} 民営銀行に関して、2024年12月時点で取得できる財務諸表を基に、当社が調査した中で負債/資本の比率がもっとも高かったもの

合併後は、預金額(Deposit)も順調に成長。

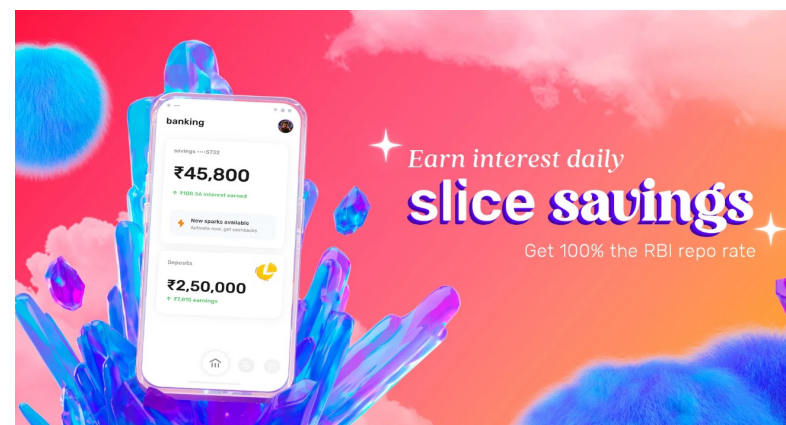
4月からは**本格的なサービス提供を開始を予定**しており更なる成長を見込む。

Deposit

預金額は合併後も順調に成長。
4月から本格的なサービス展開を予定



Depositサービスについて



- アプリ上で**開設から利用まで完結するデジタル口座**を提供。
- Saving Accountは、他の銀行に比して下記のような特徴を持ちユーザーへの強い訴求度を持つ。

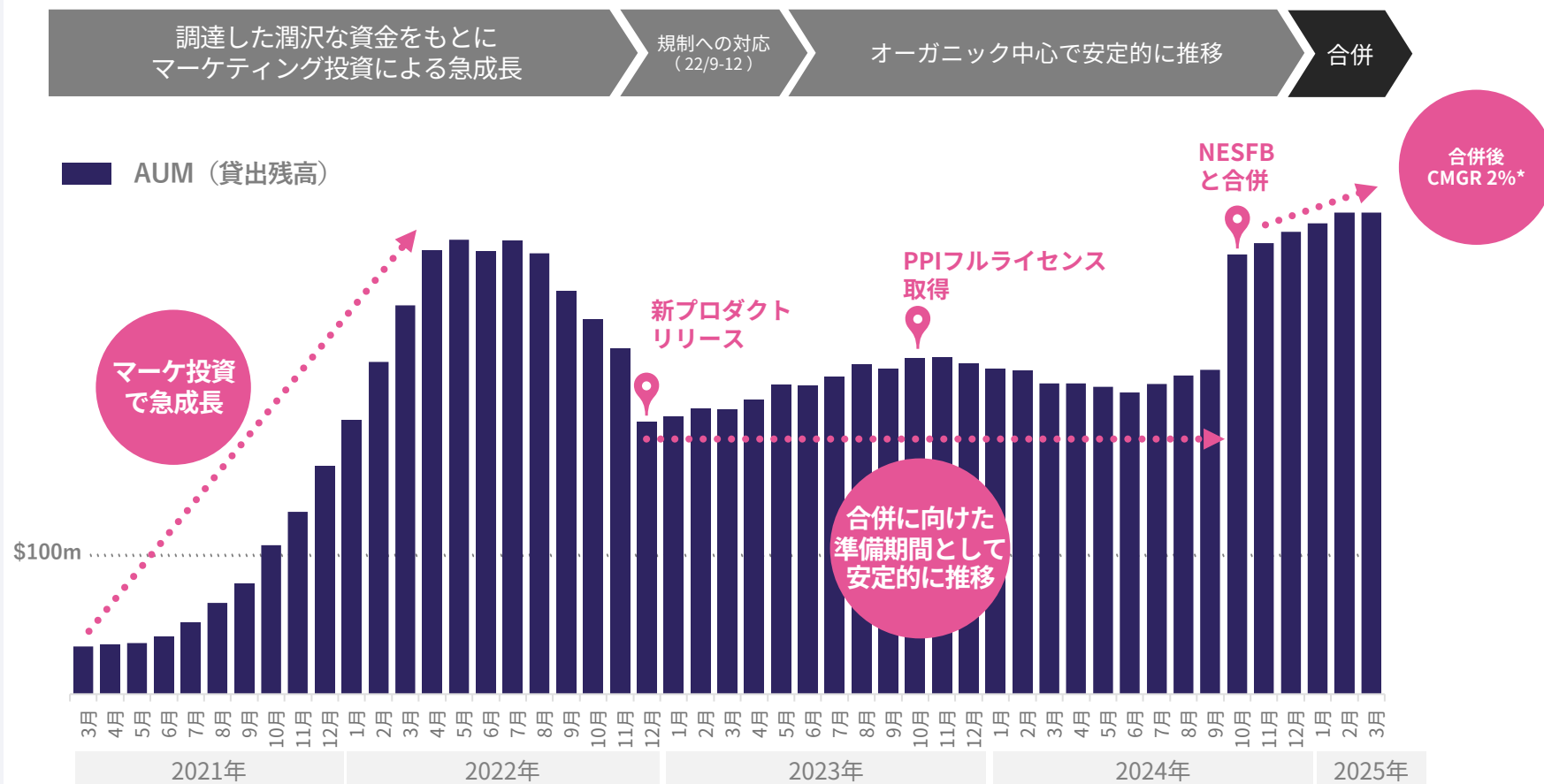
	他銀行	slice
預金利率 (RBI repo rate*対比)	約3% (VS RBI repo : 50%)	約6.25% (vs RBI repo : 100%)
利息支払い タイミング	月次	毎日

*RBI repo rateは2025年2月時点で6.25% 為替レートは簡便的にINR/USD 0.012の為替レートを一律で適用

*CMGR(Compound Monthly Growth Rate) 2024年10月末から2025年3月までの5か月で算定

合併準備期間を経て、重要KPIである**AUMの成長も再開**。

今後の新プロダクトのローンチ等を通じて成長の加速が期待される。



為替レートは簡便的にINR/USD 0.012の為替レートを一律で適用

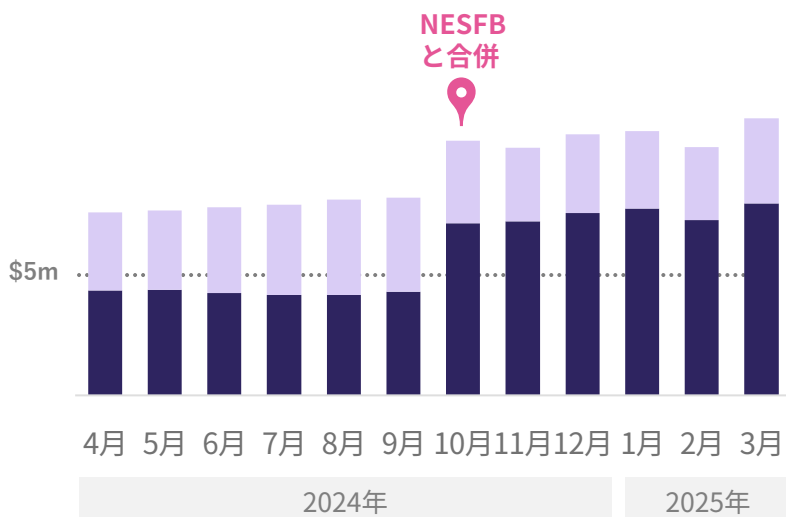
*CMGR(Compound Monthly Growth Rate) 2024年10月末から2025年3月までの5か月で算定

合併後も**AUMあたりの収益性は概ね維持**。

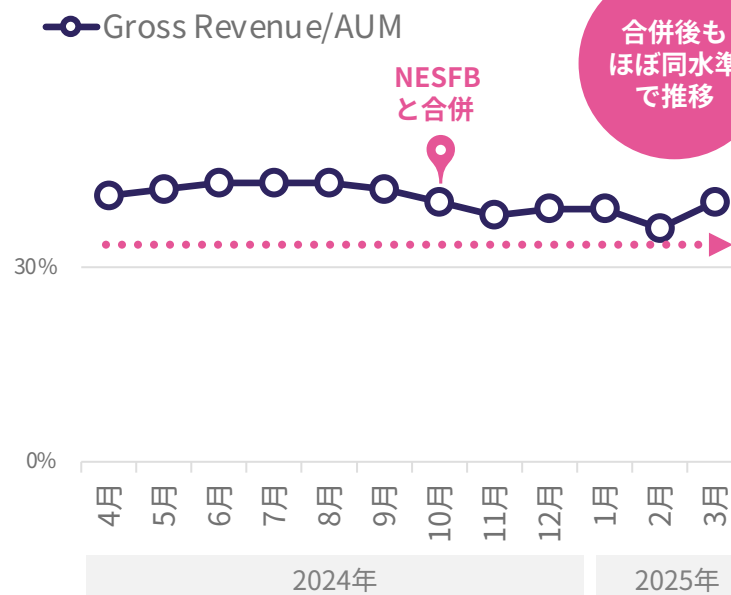
先行指標となるAUMの成長に伴い、Gross Revenueも継続的に成長することが見込まれる。

Gross Revenue
(収入合計)

■ 利息収入 ■ その他収入



AUMの収益率*



POINT

- 合併に際して**Gross Revenue**は大きく増加。
- 合併後で収益率はほぼ同水準で推移。先行指標となるAUMの増加に伴って少し時間をおいて成長が進むことを見込む。
- 2月は日数が少ないこともあり、売上は月次比較では前月から若干の減少。

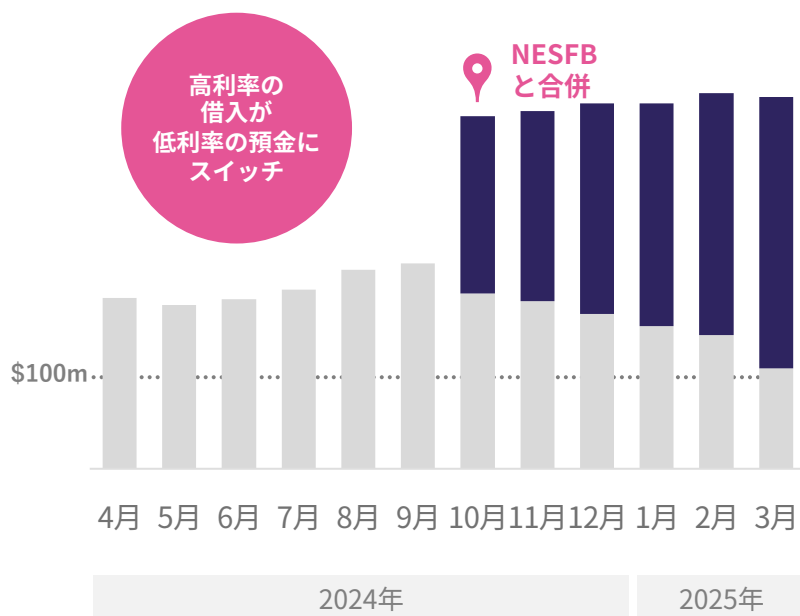
* Gross Revenue/AUM：AUMあたりの収益性を表す指標 各月Gross Revenue/AUM*12で算定
為替レートは簡便的にINR/USD 0.012の為替レートを一律で適用

合併後の預金増加に伴い、高利率の借入から低利率の預金へのシフトが進行。
 これにより、**Debt全体の借入コストは想定通り低下**。

Debt状況

高利率の外部金融機関からの借入を返済し、
低利率な預金による調達へのシフトが進む

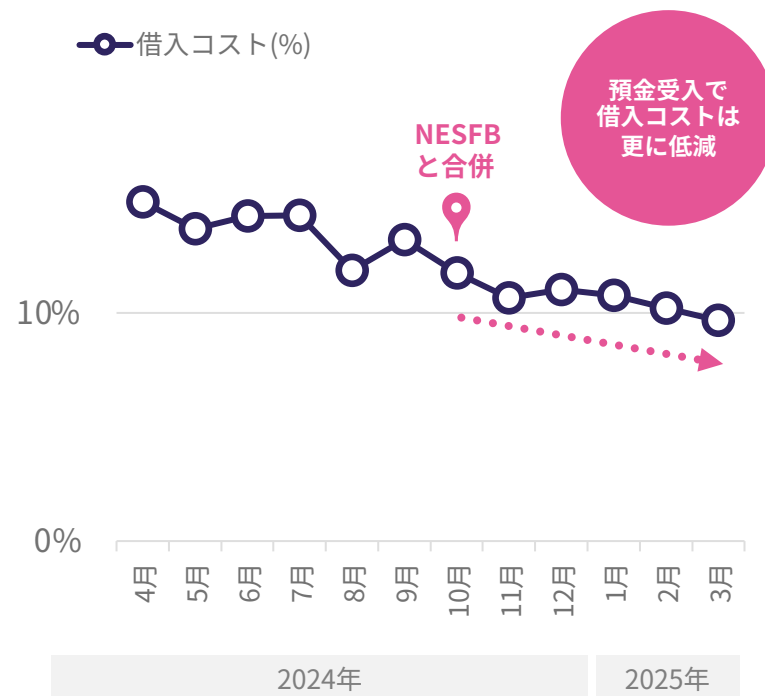
■ 借入 ■ 預金



借入コスト

借入が預金に徐々にシフトすることに伴い、
 全体の借入コストは更に低減

● 借入コスト(%)



合併成立後、**slice Small Finance Bank**への名称変更を申請、手続きは最終段階まで進捗。
完了後はこれまで培ったネームブランドをフルに活かした本格的な展開が期待される。

合併時名称

North East Small Finance Bank
を存続会社として合併



変更後名称

slice Small Finance Bank

に名称を変更予定
(規制当局からNo-Objection Certificateを受領済)

POINT

- Payment Bank*を除きインドのフィンテック企業が**銀行運営に参画するのは初の事例**。
*Payment Bankは、限定的な銀行業務のみが可能(貸付やクレジットカードの発行が禁止、ユーザーあたりの預金額に上限があるなど)。^{*1}
- 銀行ライセンス未保持者による、銀行との合併が承認された事例は、**過去数十年にわたり極めて稀**。
今後も競合他社の追従は容易ではないと考える。

^{*1} : Operating Guidelines for Payments Banks RBI
出典 : (<https://www.rbi.org.in/commonman/Upload/English/Notification/PDFs/NT8012D3D3858D194184981CAF033321AA26.PDF>)

まずは、sliceのブランディング力が活かせる**Consumer に向けたプロダクト開発に注力**。
その後、デジタルファーストな銀行として各種プロダクトを展開し市場の拡大を目指していく。

直近の注力領域

既存銀行プロダクトの浸透

既存プロダクトを改善し、sliceユーザーへデジタルファーストな銀行サービスを提供

- デジタル普通預金口座
- 消費者向けクレジットの提供
- 決済サービス
- 商業者向け融資

POINT

- 直近は、**sliceのブランディング力と既存プロダクトを活かしたサービス改善**に注力。
- その後はConsumer にとどまらず、**デジタルファーストな銀行として各種プロダクトを展開し市場を拡大**。

今後の拡大領域

他銀行プロダクトへのサービス拡張

デジタルファーストバンクとして、フルラインナップのサービス提供を目指す

- 法人向け決済・資金管理サービス
(Transaction banking)
- 証券仲介サービス
(Broking Services)
- 保険商品提供
(Insurance Service)

4

Mid-term Financial Policy

中期財務目標について



2027年5月期時点

事業サイド

営業利益/EBITDA

900百万円

ROIC^{*}

(既存事業投下資本に対する)

15%以上

投資サイド

IRR

30%

* 投資可能現預金については、資金使途に応じて税引後EBITDA/投下資本などの指標で総合的に評価する

成長性と安定C/F積み増しによる資本効率向上を両立し、株主還元水準の強化に取り組む。

資本政策の方針

成長と安定C/Fのバランスのとれた資本投下を推進。
資本効率の向上に応じて株主還元も強化する。

① 資本投下

適切な資本配分により安定したC/Fの創出と成長を両立

- 既存事業のC/Fから、**配当原資とSC事業への投下資本を安定的に確保。**
- 投資可能現預金は、**安定C/Fの成長に寄与する領域への資本投下**により資本効率を向上。
- 投資サイドの資本より、sliceを筆頭に中長期的に大きな投資収益を実現。

② 株主還元

マーケットからの期待に対応した適切な株主還元の実現

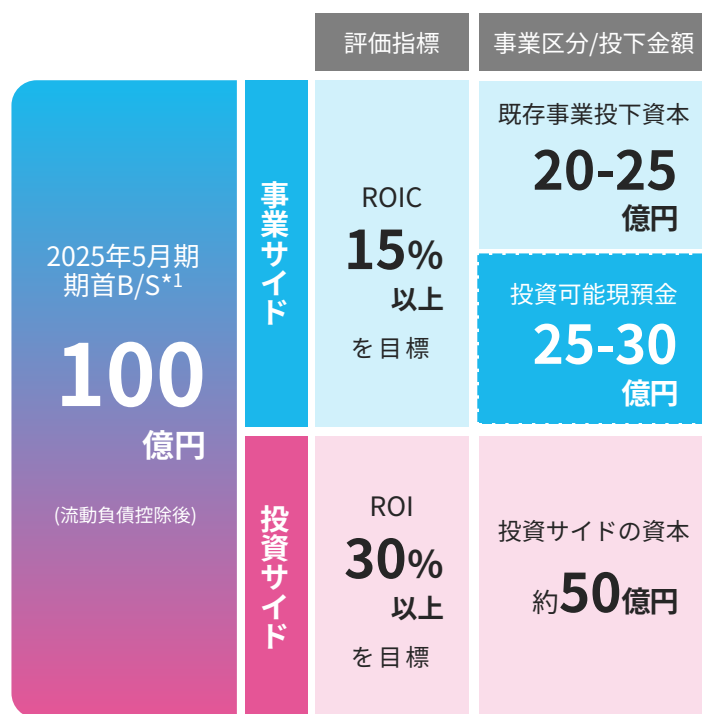
- 金利上昇などマクロ的なリスクプレミアム上昇を踏まえ**株主還元を強化。**
- 資本効率の向上を継続すると共に、自己株式取得によってEPSの向上も同時に推進。

① 資本投下：2025年5月期Q3時点の状況

中期の財務目標に則り、適切な資本投下を行うように引き続き注力。

既存事業投下資本はROIC20%水準を維持しており、投資可能現預金は**35~40億円**まで増加。

中期の財務目標（2024年5月期Q4末 公表）



2025年5月期Q3時点

資本効率と成長性の両立を図り、安定C/Fの強化を追求

既存事業投下資本

ROIC20%前後まで資本効率を向上。^{*2}

投資可能現預金額

事業サイドでの利益創出と投資サイドでの一部銘柄のExitにより、2025年5月期Q3末の投資可能現預金は**35~40億円**まで増加。

投資サイドの資本

sliceの持分法適用除外影響等により、投資サイド資本は**55億円**まで増加。^{*3}

*1 運転資本の概念に補正するため、流動資産から流動負債を控除。既存事業投下資本は、当該運転資本に事業用固定資産及び事業用現預金を加算して推計

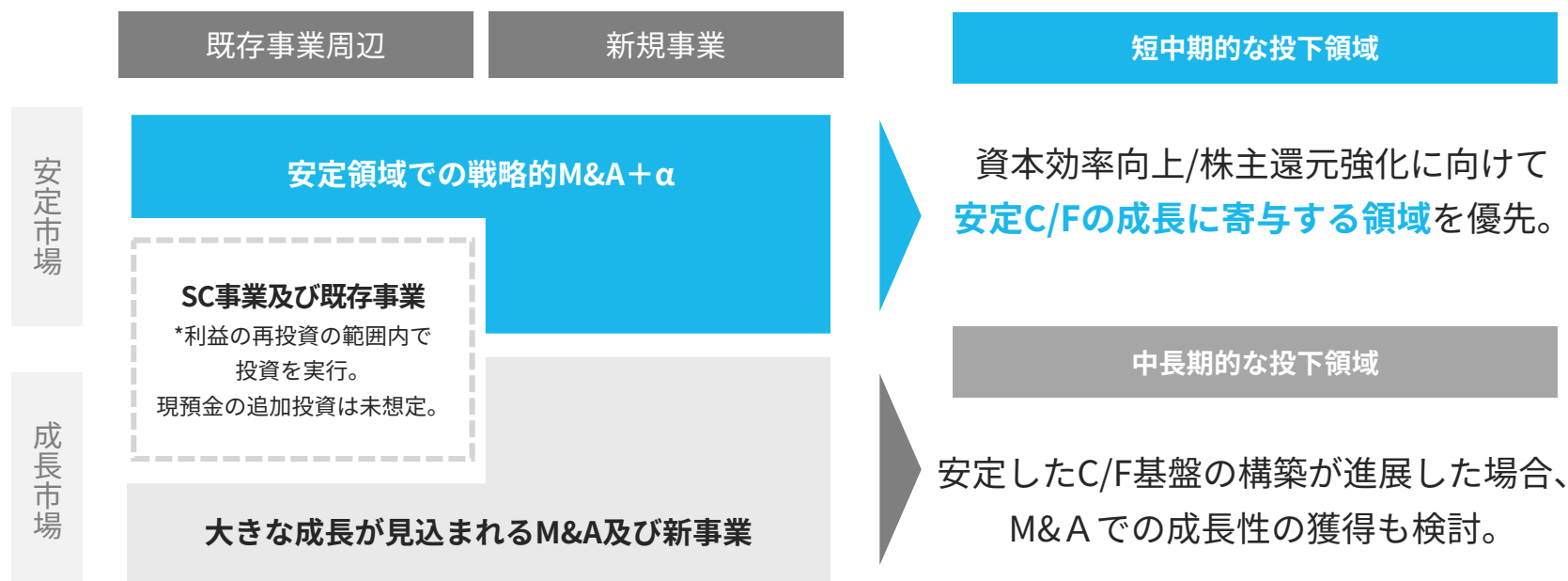
*2 ROICの計算式について：2025年5月期従来業績予想営業利益6.8億円に(1-実効税率30.62%)をかけて算出した想定税後営業利益を既存事業投下資本(20~25億円)で除して計算

*3 連結B/S上の投資有価証券残高に加え、LP出資のコミット済金額の支払に必要な現預金及び投資サイドにおいて必要となる現預金を含む

① 資本投下：投資可能現預金の投下方針

投資のエコノミクスが合うことを前提に、安定収益が見込める領域での**当社のバリューチェーンを強化するM&Aを基本方針**としながら、当該領域における新たな事業機会も柔軟に検討。

投資可能現預金額(35-40億円)の投下領域



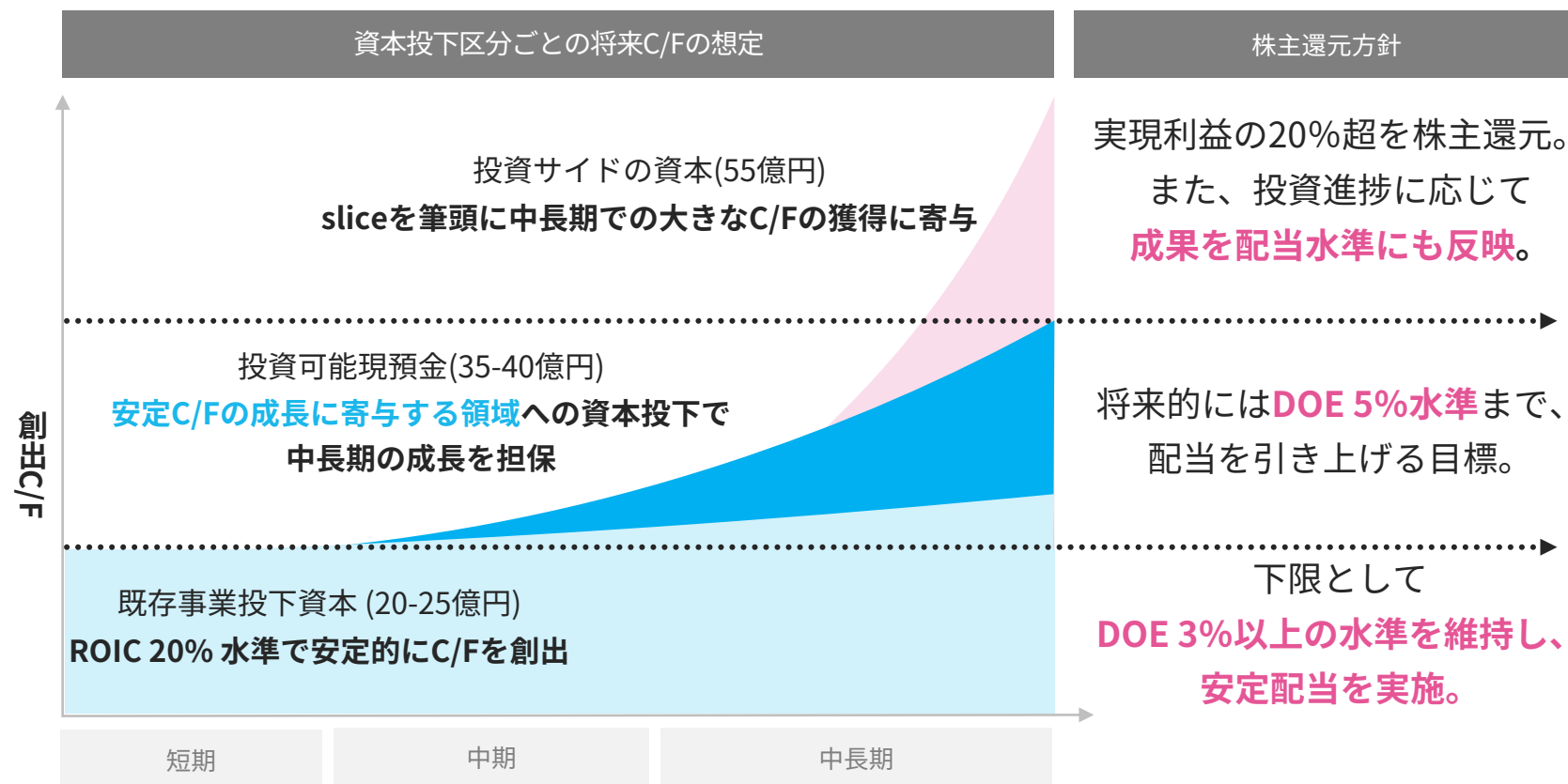
POINT

- M&Aは当面、**成長性より安定したC/F基盤の構築に向けた投資**を優先。
- 領域としては、バリューチェーン強化を目的としたM&Aをコア戦略と位置づけ。

② 株主還元：将来C/Fと株主還元の全体像

中長期的にDOE 3%以上の安定配当を行える既存事業のC/F基盤が存在。
併せて、中長期の株主還元拡大に向け、安定C/F基盤の強化に投資をする。

将来C/Fの想定と株主還元方針



5

Topics

その他トピックス



2025年4月に施行される東証の英文開示義務化に先駆け、生成AIによる**高度な英訳機能を搭載した開示業務支援クラウド「IR Hub」**をリリース。すでに**複数の企業で有料導入が進む**。

あらゆる開示業務を
早く、正確に、
そして楽に。

開示業務支援クラウド



POINT

01

ワンクリックで高精度な
英文開示書類を自動生成

02

AIが開示文書の
作成をサポート

03

他社の開示事例を曖昧な
単語でも検索できるDB

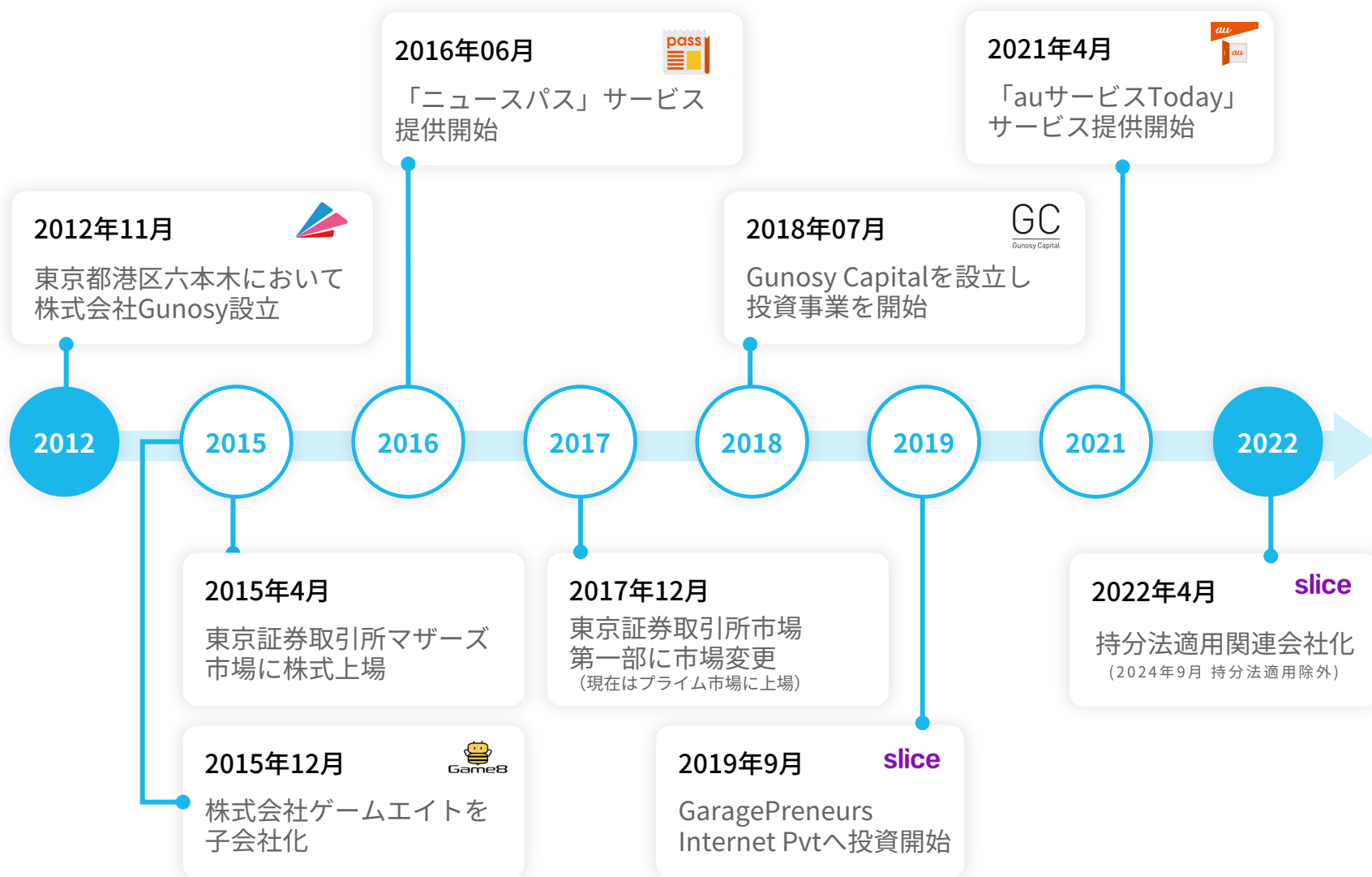
6

About Gunosy

会社概要

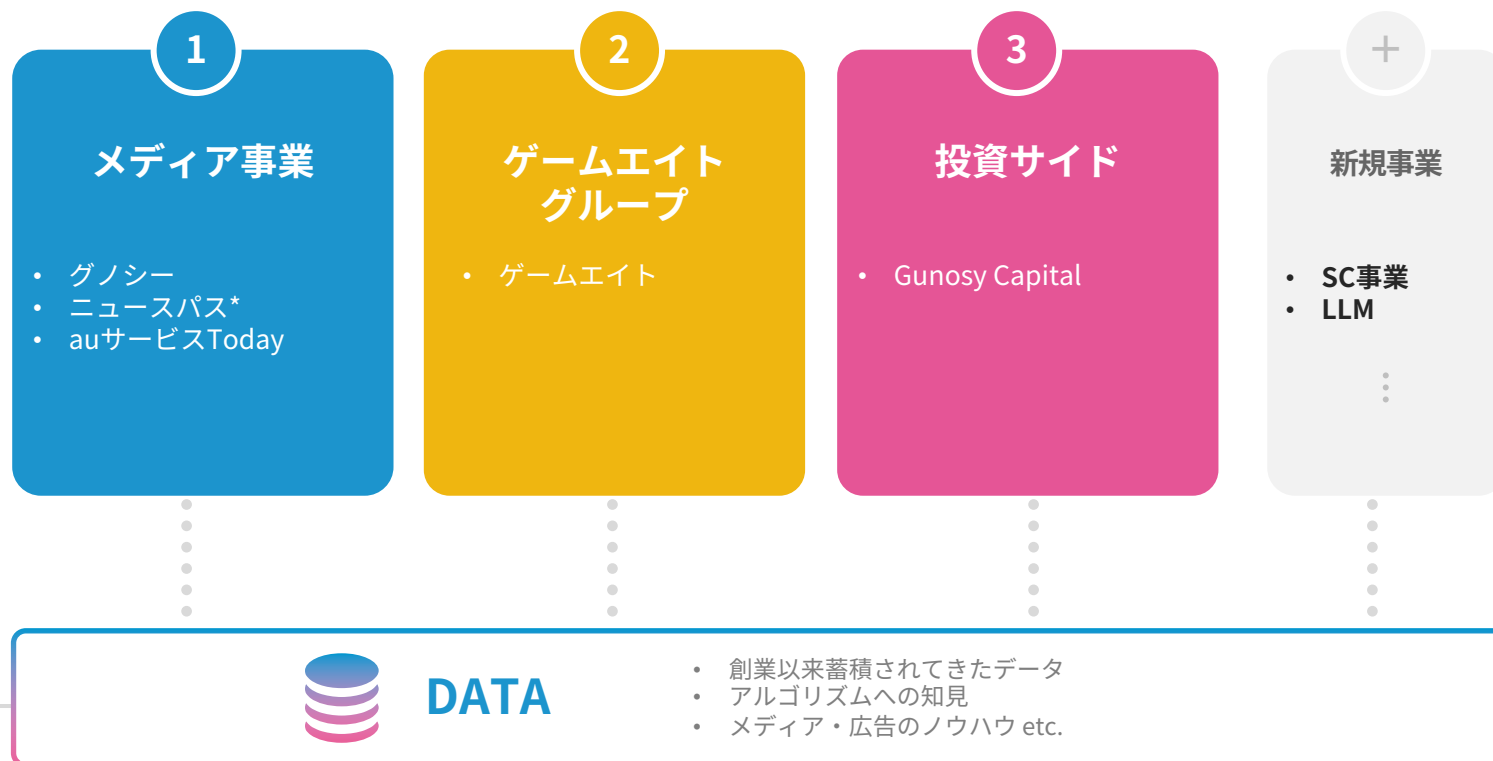


情報を世界中の人に
最適に届ける



Gunosy

3つの事業で中長期の成長を牽引



* ニュースパスは、2025年4月よりニュースライトに名称を変更

既存事業のグロース、新規領域の開拓を通じて企業価値を向上

時価総額1,000億円を中長期の指針として、
グループ全体での成長を目指す。



2025年5月期の経営体制は以下の通り。



代表取締役会長
グループCEO

木村 新司



代表取締役
社長

西尾 健太郎



取締役
最高執行責任者

沢村 俊介



取締役
最高財務責任者

岩瀬 辰幸



取締役

能勢 昌明



社外取締役

富塚 優



社外取締役

城下 純一



社外取締役

守屋 彰人



社外取締役

射場 瞬

基礎情報

• 会社名	株式会社Gunosy	• 役員	代表取締役会長 グループCEO	木村 新司
• 代表者	木村 新司 西尾 健太郎		代表取締役社長	西尾 健太郎
• 創業	2012年11月14日		取締役 最高執行責任者	沢村 俊介
• 決算期	5月		取締役 最高財務責任者	岩瀬 辰幸
• 資本金	4,099百万円（2025年2月末現在）		取締役	能勢 昌明
• 証券コード	6047（東証プライム）		取締役（社外）	冨塚 優
• 監査法人	EY新日本有限責任監査法人		取締役（社外）	城下 純一
• 従業員数	187名 （2025年2月末現在 連結ベース）		取締役（社外）	守屋 彰人
• 所在地	東京都渋谷区渋谷2-24-12		取締役（社外）	射場 瞬
• 事業内容	情報キュレーションサービス その他メディアの開発及び運営		監査役	石橋 雅和
			監査役（社外）	清水 健次
			監査役（社外）	和田 健吾

「Gunosy Way」から「Gunosy Pride」へ

Gunosy

Gunosyが歩む道標として存在した「Gunosy Way」を、
当初の思いやコンセプトを継承する形で「**Gunosy Pride**」として再構築。

Gunosy

1 三方よし

顧客よし、ユーザーよし、世間よし。自分よし、相手よし、仲間よし。
社外や社会へはもちろん、社内にも善の循環をつくり続けていきます。

2 サイエンスで機会をつくる

データとテクノロジーを武器に、ファクトでイノベーションを加速させる。
サイエンスを駆使して社会課題の解決に取り組みます。

3 百年クオリティ

これでいい、ではなく、これがいい、と思えるまで手を止めない。
百年耐えるクオリティを求めて目の前の仕事に愚直に向き合います。

4 逆境に熱狂せよ

チャレンジの数だけ逆境がある。しかし逆境こそ成長のチャンス。
目の前の壁から逃げず、むしろ積極的に仕掛けていきます。

1

メディアとして社会に有益な形での情報の発信（エコーチェンバーやフィルターバブルの排除や品質の高いゲーム攻略wikiの提供）

2

安心な広告体験の提供に向けた広告審査への取り組み

3

出社/リモートを組み合わせた多様な働き方の推進

4

社内DXの推進を通じたDX人材の育成

5

指名報酬委員会の運営や取締役会実効性評価を通じた適切なガバナンス強化

7

APPENDIX

参考資料：sliceに関して

2015年に設立。当社はsliceに対して、2019年より累計で30億円超を出資。

2024年10月にNESFBとの合併プロセスが完了。

sliceについて

数十億人のインド人のために
金融体験を一新し、変革する



Executive Director
of NESFB

&

Founder of slice

ラジャン・バジャージ
(Rajan Bajaj)

ラジャン氏は、同社設立以前に家具を取り扱う新興企業であるMeshを立ち上げました。Meshで顧客は毎月少額の支払いで商品をレンタルすることができ、好きな時に購入も可能でした。さらにその後ラジャン氏は、現Walmart傘下のインドEC大手Flipkart社のプロダクトチームにおいて、当時最も急速に成長していた主要事業部門であるマーケットプレイスの立ち上げにも貢献しました。これらの経験を通しラジャン氏は金融ツールとしてクレジットカードの重要性を深く理解し、同じような高い志を持つ若者を支援するため「slice」の創設に至りました。

また、IITカラグプールの卒業生であるラジャン氏は、2021年のForbes Asia 30 under 30と2022年のForbes India 30 under 30に選出されています。

- 2015 6月 同社創業
- 2019 9月 初回投資を実施
- 2020 6月 第2回目の投資を実施
- 2021 6月 第3回目の投資を実施
- 2022 2月 第4回目の投資を実施
- 4月 持分法適用関連会社化
- 9月 RBIよりDigital Lending Guidelinesが発表
- 12月 Digital Lending Guidelinesに沿った*1
新プロダクトリリース（12月1日～）
- 2023 9月 NESFBとの合併について、
RBIからの承認を獲得
- 2024 10月 NESFBとの合併が完了。
併せて持分法適用から除外（2024年9月～）

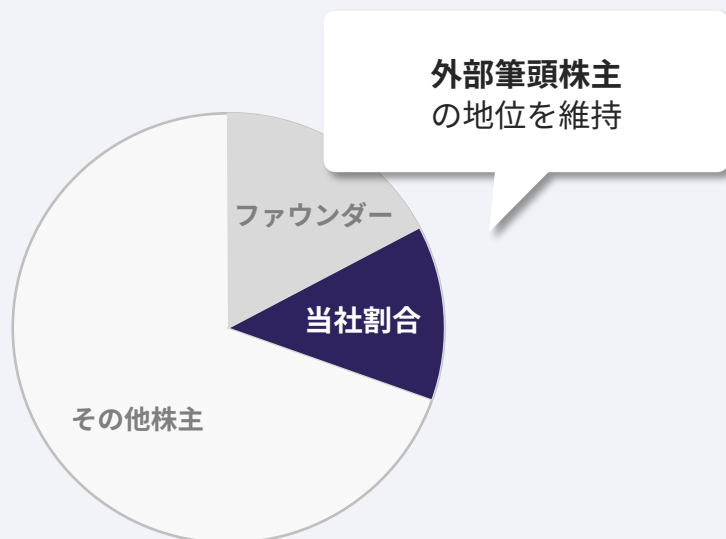
*1個人向け与信に関する規制

詳細 (<https://rbidocs.rbi.org.in/rdocs/notification/PDFs/GUIDELINESDIGITALLENDINGD5C35A71D8124A0E92AEB940A7D25BB3.PDF>)

合併による株式希薄化は限定的。

外部筆頭株主として、引き続き強固なリレーションを維持。

当社の保有比率



sliceとのリレーション状況

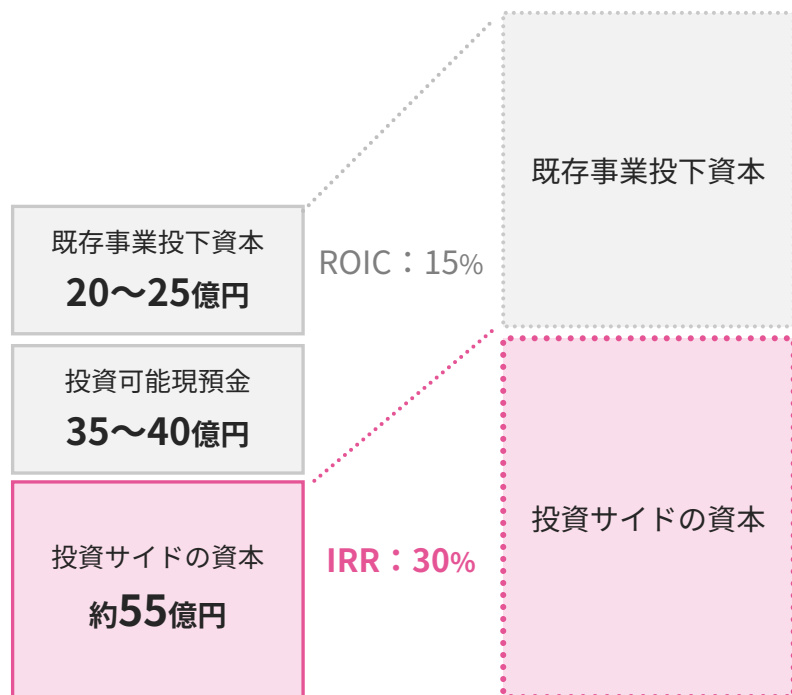
- 銀行業への業態の変化に伴う、**適切な経営体制の構築と成長が両立できる体制**を目指し、取締役派遣を中止した結果、持分法適用の対象外に
- **外部筆頭株主**として、適切なモニタリングを継続するための**強固なリレーションを維持**
- 引き続き、**最高投資責任者である間庭がアセットマネジメントを担当**

外部筆頭株主として、引き続き強固なリレーションを維持

引き続き、当社の投資部門における重要案件として注力。

保有持分の価値向上を通じて、中長期的な企業価値の最大化に貢献。

BSへの貢献イメージ



2025年5月期 Q3時点

中長期BSイメージ

当社の保有方針

- sliceは当社の**投資サイド**における**重要案件**としての立ち位置を維持
- 引き続き時価総額1,000億円の実現を達成するための重要な柱のひとつ
- 4-5年後に上場することを期待し、**長期での保有を前提**
- 将来的な売却時は、**売却利益の20%を目安に株主還元を実施**することを想定

若年層から支持を得る既存ブランドと培ったテクノロジーを活用し、
後発ながらもインドの**銀行セクションでのポジショニングの早期確立**を期待。

インド民営銀行 概要

AU Small Finance Bank



1996年にAU Financiersとして設立。ジャイプールに本社を置き、普通預金口座、定期預金、ローン（ビジネスローン、個人ローンなど）、デビットカードなど、さまざまな金融商品を提供。2023年4月に、Fincare SFBを買収。

時価総額

約0.8兆円^{*}

Small Finance Bank(SFB)の中で
時価総額首位

HDFC Bank



HDFC Bankは1995年に商業銀行としての業務を開始。ムンバイに本社を置き、顧客は9,300万人超。インド国内で最大のプライベートセクター銀行として知られ、あらゆる金融サービスを提供。

時価総額

約25.8兆円^{*}

Private Sector Bankの中で
時価総額首位



コメント

グループ執行役員
最高投資責任者（CIO）

間庭 裕喜

銀行業への移行による経営体制の変更に合わせて取締役からは外れるものの、引き続きslice経営陣との緊密な関係/コミュニケーションは維持。今後は、銀行業ライセンスを保持して、規制の下で、テクノロジーを駆使したユニークで効率的な運営体制を構築。これにより付加価値の高いユーザー体験を提供し、**インドの国内でも他に類を見ないポジショニングを確立することを期待している。**

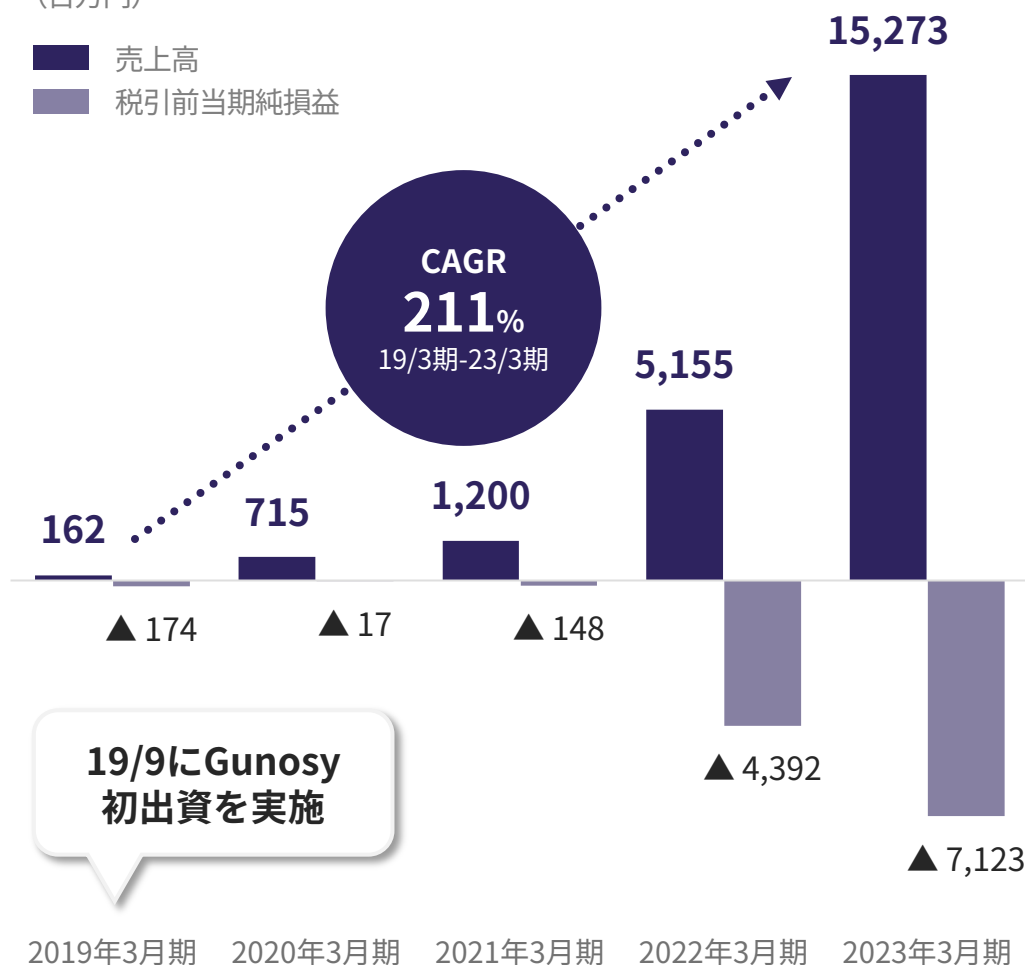
*出典：外部報道記事等より当社調べ

*時価総額は12月中旬時点のINR建ての時価総額を、INR・JPY=1.8で換算し概算額を算出

(百万円)

■ 売上高

■ 税引前当期純損益



2023年3月期ハイライト

売上高

15,273

YonY

百万円

296%

税引前当期純損益

△ 7,123

YonY

百万円

— %

CAGR(19/3期-23/3期)

211%

為替レートは簡便的に足元2023年11月末時点の為替レートを一律で適用
データソース：<https://www.mca.gov.in/mcafoportal/getCertifiedCopies.do> <https://www.sliceit.com/corporate-governance/>

2023年3月末の総資産は339億円。

自己資本比率は50%超であり、健全な財務状況。

2023年3月期末

(百万円)



総資産：339億円

自己資本比率：50%超

為替レートは簡便的に2023年11月末時点の為替レートを一律で適用

データソース：<https://www.mca.gov.in/mcafoportal/getCertifiedCopies.do> <https://www.sliceit.com/corporate-governance/>